

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

PCT/JP2004/007053

10.6.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 9 月 3 0 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 3 3 9 4 8 9
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 3 3 9 4 8 9]

出 願 人 ソニー株式会社
Applicant(s):

REC'D 01 JUL 2004

WIPO

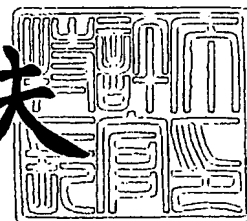
PCT

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年 6 月 8 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願
【整理番号】 0390670706
【提出日】 平成15年 9月30日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G06F 17/60
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内
 【氏名】 吉光寺 宏幸
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社内
 【氏名】 奥澤 望
【特許出願人】
 【識別番号】 000002185
 【氏名又は名称】 ソニー株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100092152
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 服部 毅巖
 【電話番号】 0426-45-6644
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 009874
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0010569

【書類名】特許請求の範囲

【請求項 1】

受信中の放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を要求する要求情報を特定間隔で連続的に送信する送信手段と、

前記要求情報に対応する関連情報と共に、前記放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 1 の識別コードを受信する受信手段と、

前記受信手段が受信した前記関連情報と前記第 1 の識別コードとを記憶する記憶手段と、

前記記憶手段に記憶された前記関連情報を表示する表示手段と、を備え、

前記送信手段は、前記任意のコンテンツの購入指示に応答して、当該任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に前記第 1 の識別コードを送信し、

前記受信手段は、前記購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、前記ユーザによる更なるコンテンツ購入において、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 2 の識別コードを受信する、

ことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】

前記受信手段は、前記コンテンツデータ、前記第 2 の識別コード、及び前記第 1 の識別コードに対応する付加データを受信することを特徴とする請求項 1 記載の情報処理装置。

【請求項 3】

前記送信手段は、前記購入要求情報、前記第 1 の識別コード、及び前記ユーザを識別するためのユーザ識別情報を送信することを特徴とする請求項 1 記載の情報処理装置。

【請求項 4】

前記送信手段は、複数の前記第 1 の識別コードを送信し、

前記受信手段は、前記コンテンツデータ、前記第 2 の識別コード、及び複数の前記第 1 の識別コードに対応する付加データを受信する、

ことを特徴とする請求項 1 記載の情報処理装置。

【請求項 5】

放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を記憶する記憶手段と、

前記関連情報を要求する要求情報を受信する受信手段と、

前記要求情報に対応する前記関連情報と共に、前記放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 1 の識別コードを送信する送信手段と、を備え、

前記受信手段は、前記任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に前記第 1 の識別コードを受信し、

前記送信手段は、前記購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、前記ユーザによる更なるコンテンツ購入において、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 2 の識別コードを送信する、

ことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 6】

前記送信手段は、特定の時間帯には同一の前記第 1 の識別コードを送信することを特徴とする請求項 5 記載の情報処理装置。

【請求項 7】

前記受信手段は、前記購入要求情報、前記第 1 の識別コード、及び前記ユーザを識別するためのユーザ識別情報を受信し、

前記送信手段は、前記コンテンツデータ及び前記第 1 の識別コードに対応する付加データを送信し、

さらに、前記送信手段による前記付加データの送信を前記ユーザ識別情報ごとに管理する管理手段を備えることを特徴とする請求項 5 記載の情報処理装置。

【請求項 8】

前記送信手段は、前記第 1 の識別コードの数に応じて前記付加データを送信することを特徴とする請求項 7 記載の情報処理装置。

【請求項 9】

前記第 1 の識別コードには、有効期限を示す情報が含まれている事を特徴とする請求項 5 記載の情報処理装置。

【請求項 10】

前記第 1 の識別コードには、前記ユーザが前記コンテンツを購入するときに前記ユーザに対して特定のサービスを提供するサービス業者を識別するサービス業者識別情報が含まれていることを特徴とする請求項 5 記載の情報処理装置。

【請求項 11】

前記サービス業者識別情報に基づいて前記第 1 の識別コードを認証することを特徴とする請求項 10 記載の情報処理装置。

【請求項 12】

前記第 2 の識別コードには、前記サービス業者識別情報とは異なるサービス業者識別情報が含まれていることを特徴とする請求項 10 記載の情報処理装置。

【請求項 13】

前記第 2 の識別コードは、ダミートラックであることを特徴とする請求項 5 記載の情報処理装置。

【請求項 14】

受信中の放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を要求する要求情報を特定間隔で連続的に送信し、

前記要求情報に対応する関連情報と共に、前記放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 1 の識別コードを受信し、

前記受信手段が受信した前記関連情報と前記第 1 の識別コードとを記憶し、

前記記憶手段に記憶された前記関連情報を表示し、

前記任意のコンテンツの購入指示に応答して、当該任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に前記第 1 の識別コードを送信し、

前記購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、前記ユーザによる更なるコンテンツ購入において、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 2 の識別コードを受信する、

ことを特徴とする情報処理方法。

【請求項 15】

放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を記憶し、

前記関連情報を要求する要求情報を受信し、

前記要求情報に対応する前記関連情報と共に、前記放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 1 の識別コードを送信し、

前記任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に前記第 1 の識別コードを受信し、

前記購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、前記ユーザによる更なるコンテンツ購入において、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 2 の識別コードを送信する、

ことを特徴とする情報処理方法。

【請求項 16】

コンピュータを、

受信中の放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を要求する要求情報を特定間隔で連続的に送信する送信手段、

前記要求情報に対応する関連情報と共に、前記放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 1 の識

別コードを受信する受信手段、

前記受信手段が受信した前記関連情報と前記第1の識別コードとを記憶する記憶手段、

前記記憶手段に記憶された前記関連情報を表示する表示手段、として機能させ、

前記送信手段は、前記任意のコンテンツの購入指示に応答して、当該任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に前記第1の識別コードを送信し、

前記受信手段は、前記購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、前記ユーザによる更なるコンテンツ購入において、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第2の識別コードを受信する、

ことを特徴とする情報処理プログラム。

【請求項17】

コンピュータを、

放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を記憶する記憶手段、

前記関連情報を要求する要求情報を受信する受信手段、

前記要求情報に対応する前記関連情報と共に、前記放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第1の識別コードを送信する送信手段、として機能させ、

前記受信手段は、前記任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に前記第1の識別コードを受信し、

前記送信手段は、前記購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、前記ユーザによる更なるコンテンツ購入において、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第2の識別コードを送信する、

ことを特徴とする情報処理プログラム。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報処理装置、情報処理方法、及び情報処理プログラム

【技術分野】

【0001】

本発明は放送コンテンツの関連情報を受信する情報処理装置に関し、特に放送中のコンテンツの関連情報を定期的に受信する情報処理装置に関する。

【背景技術】

【0002】

現在、多くのコンテンツが販売されている。コンテンツは、例えば、CD (Compact Disc) などの記録媒体に記録されて販売される。また、コンテンツをインターネット経由で購入することもできる。

【0003】

従来、記録媒体に記録されたコンテンツに電子透かし情報や広告情報を付加データとして付加し、この付加データにユーザに対する特典の情報を含めることで、付加データが利用されたときに特典の情報を入手できるようにする技術がある (例えば、特許文献1 参照)。

【特許文献1】 特開 2002-112012 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、FM放送などの放送局は、放送される楽曲に関連する関連情報をインターネット経由でユーザに提供している。例えば、現在放送されている楽曲の関連情報の提供サービス (ナウオンエアー) や、過去の番組内で放送された楽曲リスト (オンエアーリスト) の提供サービスなどが行われている。

【0005】

また、インターネット経由で楽曲などのコンテンツを検索するサービス (配信楽曲検索サービス) や、CDを検索するサービス (CD検索サービス) も行われている。これらの検索サービスでは、検索キーに合致するCDの情報や、そのCDに収録された楽曲の関連情報が検索結果として返される。

【0006】

これらのサービスを互いに連携させることで、サービスの利用促進を図ることもできる。例えば、関連情報を提供するサーバからコンテンツを販売するサーバへリンクを張り、関連情報提供サービスからコンテンツ販売サービスへの移行を円滑に行えるようにする。複数のサービスを連携させることで、それらのサービスを利用するユーザの利便性が向上する。

【0007】

また、最初のサービスの利用がなされた段階で、次のサービスの利用に対する何らかの特典を用意することで、更なるサービスの利用促進向上を図ることも可能である。しかしながら、例えば、現在放送中の楽曲あるいはオンエアーリストに記載された楽曲を購入したユーザに対して、ある特定のCDの割引などの特典を提供できる仕組みは存在しない。

【0008】

なお、特許文献1に記載された技術は、記録媒体に記録されたコンテンツと付加データを利用するものであり、ネットワークを介したサービスを連携させるものではない。

本発明はこのような点に鑑みてなされたものであり、ユーザがコンテンツを購入した際に、更なるコンテンツの購入に対して特定のサービスを受けるための権利をユーザに提供することのできる情報処理装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明では上記課題を解決するために、受信中の放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を要求する要求情報を特定間隔で連続的に送信する送信手段と、前記要求情報に対

応する関連情報と共に、前記放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第1の識別コードを受信する受信手段と、前記受信手段が受信した前記関連情報と前記第1の識別コードとを記憶する記憶手段と、前記記憶手段に記憶された前記関連情報を表示する表示手段と、を備え、前記送信手段は、前記任意のコンテンツの購入指示に応答して、当該任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に前記第1の識別コードを送信し、前記受信手段は、前記購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、前記ユーザによる更なるコンテンツ購入において、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第2の識別コードを受信する、ことを特徴とする情報処理装置が提供される。

【0010】

この情報処理装置において、送信手段は、受信中の放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を要求する要求情報を特定間隔で連続的に送信し、受信手段は、送信手段が送信した要求情報に対応する関連情報と共に、放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第1の識別コードを受信する。記憶手段は、受信手段が受信した関連情報と第1の識別コードとを記憶し、表示手段は、記憶手段に記憶された関連情報を表示する。そして送信手段は、任意のコンテンツの購入指示に応答して、当該任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に第1の識別コードを送信し、受信手段は、購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、ユーザによる更なるコンテンツ購入において、ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第2の識別コードを受信する。

【0011】

また本発明では上記課題を解決するために、放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を記憶する記憶手段と、前記関連情報を要求する要求情報を受信する受信手段と、前記要求情報に対応する前記関連情報と共に、前記放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第1の識別コードを送信する送信手段と、を備え、前記受信手段は、前記任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に前記第1の識別コードを受信し、前記送信手段は、前記購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、前記ユーザによる更なるコンテンツ購入において、前記ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第2の識別コードを送信する、ことを特徴とする情報処理装置が提供される。

【0012】

この情報処理装置において、記憶手段は放送番組内のコンテンツに関連する関連情報を記憶し、受信手段は、記憶手段が記憶する関連情報を要求する要求情報を受信し、送信手段は、要求情報に対応する関連情報と共に、放送番組を受信するユーザが任意のコンテンツを購入する際に、ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第1の識別コードを送信する。そして受信手段は、コンテンツの購入を要求する購入要求情報と共に第1の識別コードを受信し、送信手段は、購入要求情報に対応するコンテンツデータと共に、ユーザによる更なるコンテンツ購入においてユーザに対して特定のサービスを提供する第2の識別コードを送信する。

【発明の効果】

【0013】

本発明の情報処理装置によれば、ユーザがコンテンツを購入した際に、更なるコンテンツの購入に対して特定のサービスを受けるための権利をユーザに提供することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

以下、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

図1は、本発明の原理を説明するための原理図である。以下、この図1を用いて、本発明の概要について説明する。

【0015】

図1は、例えば楽曲などのコンテンツを放送番組を通じて受信するユーザに対して特典

を付加する特典付加システムに本発明を適用した場合について示している。

特典付加システムは、情報処理装置 1 及び情報処理装置 2 によって構成される。情報処理装置 1 と情報処理装置 2 とは、例えばインターネットなどのネットワークによって接続されているものとする。情報処理装置 1 は、送信手段 1 a、受信手段 1 b、記憶手段 1 c、及び表示手段 1 d によって構成され、クライアントとしての機能を有する。情報処理装置 2 は、記憶手段 2 a、受信手段 2 b、及び送信手段 2 c によって構成され、クライアントとなる情報処理装置 1 からの要求に応じてサービスを提供するサーバとしての機能を有する。

【0016】

この特典付加システムにおいて、情報処理装置 1 は、情報処理装置 2 からネットワークを介して放送番組内のコンテンツに関連する関連情報 3 を受信している。なお、この関連情報 3 は、情報処理装置 2 の記憶手段 2 a に記憶され、コンテンツの変化とともに更新される。このような情報処理装置 1 と情報処理装置 2 とが相互にやりとりを行うことで、コンテンツを購入したユーザに対して、更なるコンテンツの購入に対する特定のサービスを受ける権利が与えられる。以下、この処理について説明する。

【0017】

まず、情報処理装置 1 は、受信中の放送番組内のコンテンツに関連する関連情報 3 を要求するための要求情報 4 を、送信手段 1 a から特定間隔で連続的に送信する。情報処理装置 2 は、情報処理装置 1 から送信される要求情報 4 を受信手段 2 b によって受信する。

【0018】

そして受信手段 2 b は、受信した要求情報 4 に対応する関連情報 3 を記憶手段 2 a から引き出し、送信手段 2 c に渡す。一方、情報処理装置 2 は、ユーザが任意のコンテンツを購入する際に、特定のサービスを受けるための権利を示す第 1 の識別コード 5 を、予め発行している。送信手段 2 c は、記憶手段 2 a から引き出された関連情報 3 と共に、上記第 1 の識別コード 5 を情報処理装置 1 に送信する。

【0019】

情報処理装置 1 は、情報処理装置 2 が送信した関連情報 3 と第 1 の識別コード 5 とを受信手段 1 b によって受信し、記憶手段 1 c にこれらの情報を記憶させる。さらに情報処理装置 1 は、記憶手段 1 c に記憶された関連情報 3 を表示手段 1 d を用いて表示させ、ユーザに対して関連情報 3 の内容を示す。

【0020】

例えば関連情報 3 が示すコンテンツなど、任意のコンテンツに対してユーザが購入を要求すると、情報処理装置 1 は、当該任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報 6 と第 1 の識別コード 5 とを送信手段 1 a から送信する。

【0021】

情報処理装置 2 は、情報処理装置 1 から送信された購入要求情報 6 と第 1 の識別コード 5 とを受信手段 2 b によって受信し、購入要求情報 6 に対応するコンテンツデータ 7 を用意する。また情報処理装置 2 は、ユーザによる更なるコンテンツ購入の際に、ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 2 の識別コード 8 を発行する。そして情報処理装置 2 は、コンテンツデータ 7 と上記第 2 の識別コード 8 とを送信手段 2 c から送信する。

【0022】

このようにして、コンテンツを購入したユーザに対して、更なるコンテンツの購入に対する特定のサービスを受けるための権利を提供することができる。

次に、本発明の実施の形態について具体的に説明する。なお、以下の説明では、楽曲または楽曲集合に関する関連情報を保存する処理を、クリップと呼ぶこととする。

【0023】

図 2 は、本発明の実施の形態に係るネットワークシステムを示す図である。端末装置 10 は、ネットワーク 30 を介して各種サーバに接続されている。ネットワーク 30 は、例えば、インターネットである。サーバとしては、CD タイトル情報提供サーバ 31、放送

局サーバ32、音楽配信サーバ33、CDショップサーバ34、インターネットラジオサーバ35、総合サービスサーバ36などがある。

【0024】

CDタイトル情報提供サーバ31は、市販されているCDに収録されている楽曲の関連情報の配信サービスを行う。

放送局サーバ32は、FM放送やテレビ(TV)放送等の放送局37が管理するサーバである。放送局37は、アンテナ38を介して無線による放送を行っており、放送局サーバ32は、放送される楽曲の関連情報の提供サービスを行う。

【0025】

なお、放送局サーバ32により提供される関連情報の提供機能は、大別して次の2つに分かれる。第1の機能は、現在放送中の楽曲の関連情報を提供する機能(ナウオンエアー)である。第2の機能は、端末装置10からの要求に応じて、既に放送した楽曲のリスト(オンエアーリスト)を提供する機能である(オンエアーリストには、各楽曲の関連情報も含まれる)。例えば、放送局サーバ32は、指定された番組内で放送した楽曲の関連情報を提供したり、指定された時間帯内に放送した楽曲の関連情報を提供したりする。

【0026】

音楽配信サーバ33は、楽曲のデジタルデータ(楽曲データ)を配信するサービスを行うサーバである。例えば、音楽配信サーバ33は、楽曲の購入手続きを行ったユーザの端末装置10に対してのみ、楽曲データを提供する。また、音楽配信サーバ33は、配信する楽曲の関連情報を提供することができる。

【0027】

CDショップサーバ34は、CDの通信販売のための注文受け付け等を行うサーバである。CDショップサーバ34は、試聴用の音声データ等の配信サービスや、販売しているCDに収録された楽曲の関連情報の提供サービスも行う。

【0028】

インターネットラジオサーバ35は、インターネット等の広域ネットワーク経由で音声番組を提供するサーバである。

総合サービスサーバ36は、ネットワーク30を介したサービスの提供窓口(ポータルサイト)として機能し、各種総合サービスの提供を仲介する。例えば、放送されている楽曲の関連情報の配信元を示す情報(例えばURL(Uniform Resource Locator))を、端末装置10に配信する。

【0029】

このように、複数のサーバが、ネットワーク30上の楽曲または楽曲集合に関する情報の提供サービスを行っている。すなわち、各サーバが、ネットワーク30上の楽曲または楽曲集合のソースとして機能している。

【0030】

なお、音楽配信サーバ33とCDショップサーバ34は、楽曲購入可能サーバである。したがって、ユーザが端末装置10を操作して楽曲購入可能サーバにアクセスすれば、ネットワーク30を介して実際に楽曲や楽曲の集合を購入できる。端末装置10のユーザは、音楽配信サーバ33に対して購入手続きを行うことで、音楽配信サーバ33から楽曲データをダウンロードできる。また、端末装置10のユーザは、CDショップサーバ34に対して購入手続きを行うことで、自宅にCDを宅配してもらうことができる。

【0031】

端末装置10は、CD29a、MD(Mini Disc)29b、ハードディスクドライブ(HDD:Hard Disk Drive)21等の記録媒体に、ローカル上の楽曲または楽曲の集合のソースを保持している。なお、CD29aとMD29bとは、可搬型の記録媒体であり、端末装置10に対して容易に着脱できる。端末装置10に対してどのようなローカルソースが用意されるかは、端末装置10の種類、目的により異なる。また、端末装置10は、アンテナ26を介して放送されるコンテンツを受信することができる。

【0032】

なお、図2に示したローカル上の楽曲または楽曲集合のソースは一例である。すなわち、端末装置10のローカルに存在する記録媒体であれば、楽曲または楽曲集合を記録することで、ローカル上の楽曲または楽曲の集合のソースとして機能させることができる。

【0033】

また、端末装置10は、クリップした関連情報を記憶するクリップ情報記憶装置21aを備えている。クリップ情報記憶装置21aは、端末装置10の二次記憶装置である。例えば、HDD21等の記憶領域の一部を、クリップ情報記憶装置21aとして機能させることができる。なお、端末装置10は、クリップを楽曲に対しても、楽曲集合に対しても行うことができる。これにより、気になる楽曲が多数含まれたFM番組、CDアルバム等については、まるごとクリップすることで、1回のクリップ動作で、気になる楽曲集合の関連情報を記録することができる。

【0034】

図3は、CDタイトル情報提供サーバのハードウェア構成例を示す図である。CDタイトル情報提供サーバ31は、CPU(Central Processing Unit)31aによって装置全体が制御されている。CPU31aには、バス31gを介してRAM(Random Access Memory)31b、HDD31c、グラフィック処理装置31d、入力インタフェース31e、および通信インタフェース31fが接続されている。

【0035】

RAM31bには、CPU31aに実行させるOS(Operating System)のプログラムやアプリケーションプログラムの少なくとも一部が一時的に格納される。また、RAM31bには、CPU31aによる処理に必要な各種データが格納される。HDD31cには、OSやアプリケーションプログラムが格納される。また、HDD31cには、端末装置10に対して提供するCDの関連情報が格納される。

【0036】

グラフィック処理装置31dには、表示装置31hが接続されている。グラフィック処理装置31dは、CPU31aからの命令に従って、画像を表示装置31hの画面に表示させる。入力インタフェース31eには、キーボード31iとマウス31jとが接続されている。入力インタフェース31eは、キーボード31iやマウス31jから送られてくる信号を、バス31gを介してCPU31aに送信する。

【0037】

通信インタフェース31fは、ネットワーク30に接続されている。通信インタフェース31fは、ネットワーク30を介して、他のコンピュータとの間でデータの送受信を行う。

【0038】

以上のようなハードウェア構成によって、本実施の形態の処理機能を実現することができる。なお、図3には、CDタイトル情報提供サーバ31のハードウェア構成を代表的に説明したが、他のサーバも同様のハードウェア構成で実現することができる。

【0039】

また、本実施の形態における端末装置10は、楽曲の再生機能を有するオーディオ機器としての機能を兼ね備えている。

図4は、端末装置の外観を示す図である。図4に示すように、本実施の形態に係る端末装置10は、一般的なシステムコンポと同様の外観をしている。端末装置10は、装置本体10a、スピーカ25a、25b、およびリモートコントローラ40で構成される。装置本体10aには、CDやDVD(Digital Versatile Disc)の再生機能、MDの録音再生機能、およびFM放送やTV放送の受信機能を備えている。装置本体10aで生成した音声信号がスピーカ25a、25bに送られることで、スピーカ25a、25bから音が出力される。

【0040】

また、装置本体10aには、表示装置17が設けられている。表示装置17には、再生中の楽曲の関連情報や、クリップによって保存された関連情報等が表示される。

リモートコントローラ 40 は、装置本体 10 a を遠隔操作するための入力装置である。リモートコントローラ 40 には複数の操作キーが設けられている。ユーザによって操作キーが押されると、赤外線等の無線の通信手段により、押された操作キーに応じた信号がリモートコントローラ 40 から装置本体 10 a に送信される。

【0041】

操作キーとしては、方向キー 41 a ~ 41 d、決定キー 42、ファンクション選択キー 43 a ~ 43 c、ツールキー 44、戻るキー 45 等がある。

方向キー 41 a ~ 41 d は、例えば、表示装置 17 に表示されたカーソルや、フォーカスが当てられる場所を移動させるために使用される。4つの方向キー 41 a ~ 41 d は、それぞれ上、下、左、右それぞれの方向に対応しており、押された方向キーに対応する方向にカーソル等が移動する。

【0042】

決定キー 42 は、例えば、表示装置 17 に表示された内容を確定するために使用される。

ファンクション選択キー 43 a ~ 43 c は、機能の選択に使用される。例えば、3つのファンクション選択キー 43 a ~ 43 c は、それぞれ総合サービス利用機能、チューナ機能、ローカルコンテンツ管理機能に対応付けられている。そして、ファンクション選択キー 43 a ~ 43 c の何れか 1つが押されると、装置本体 10 a は、押されたファンクション選択キーに対応する機能の動作モードになる。

【0043】

ツールキー 44 は、表示装置 17 上にツールメニューを表示させるためのボタンである。ツールメニュー内には、表示装置 17 に表示されている内容に応じたコマンドが表示される。ツールメニューからユーザが任意のコマンドを選択し、そのコマンドに応じた処理を端末装置 10 に実行させることができる。例えば、ユーザが方向キー 41 a ~ 41 d を操作して任意のコマンドを選択し、さらに決定キー 42 を押すことで、選択されたコマンドに応じた処理が端末装置 10 で実行される。

【0044】

戻るキー 45 は、表示装置 17 の表示内容を、直前の状態に戻すためのボタンである。

なお、リモートコントローラ 40 には、図 4 に示したもの以外にも様々な操作キーを設けることができる。例えば、音量調節キー、CD等の再生キー、停止キーなどである。

【0045】

次に、端末装置 10 の内部構成を説明する。

図 5 は、端末装置のハードウェア構成を示すブロックである。図 5 に示すような端末装置 10 により、楽曲等の様々なソースの管理、記録、再生が可能となる。

【0046】

CPU 11 は、起動されたプログラムに基づいて端末装置 10 の全体の制御、演算処理を行う。例えばネットワーク 30 を介した通信動作、ユーザに対する入出力動作、メディアからのコンテンツ再生やクリップ、HDD 21 へのコンテンツ記憶やそのための管理、クリップ情報等に基づくネットワーク 30 を介した情報検索などを行う。なお、本実施の形態の端末装置 10 が対応する記録再生可能なコンテンツデータとしては、オーディオのコンテンツデータや動画のコンテンツデータである。CPU 11 はバス 12 を介して各回路部との間で制御信号やデータのやりとりを行う。

【0047】

ROM (Read Only Memory) 13 は、CPU 11 が実行すべき動作プログラム、プログラムローダーや、各種演算係数、プログラムで用いるパラメータ等が記憶される。また、RAM 20 には、CPU 11 が実行すべきプログラムが展開される。また、CPU 11 が各種処理を実行する際において必要となるデータ領域、タスク領域としても用いられる。

【0048】

操作入力部 15 は、端末装置 10 の筐体に設けられた操作キーやジョグダイヤル、タッチパネルなどの各種操作子などを有する。なお、GUI (Graphical User Interface) 操

作のためのキーボードやマウスが操作入力部15として設けられてもよい。操作入力部15で入力された情報は入力処理部14において所定の処理が施され、CPU11に対して操作コマンドとして伝送される。CPU11は入力された操作コマンドに応答した機器としての動作が得られるように、所要の演算や制御を行う。

【0049】

表示装置17としては、例えば液晶ディスプレイなどの表示デバイスが接続され、各種情報表示が行われる。CPU11が各種動作状態や入力状態、通信状態に応じて表示情報を表示処理部16に供給すると、表示処理部16は供給された表示データに基づいて表示装置17に表示動作を実行させる。例えば、表示装置17には、サーバ等から配信された関連情報の内容や、クリップ情報の内容が表示される。また、ネットワーク30を介した楽曲の検索が行われた場合、検索結果が表示装置17に表示される。

【0050】

メディアドライブ19a, 19bは、可搬型の記録媒体に記録された楽曲等のコンテンツを記録、再生（記録媒体によって再生のみの場合もある）することができるドライブである。なお、メディアドライブ19a, 19bそれぞれが記録、または再生可能な記録媒体の種類は、1種類とは限らない。すなわち、複数の種類の記録媒体に対して記録、再生を行うことも可能である。例えば、メディアドライブ19aがCD、DVDの再生を行い、メディアドライブ19bがMDの記録再生を行う。

【0051】

なお、楽曲等のコンテンツを記録する可搬型の記録媒体としては、CD、DVD等の光学的な記録媒体に限定されるべきものではない。例えば、フラッシュメモリなどの半導体メモリにより構成された記録媒体にコンテンツを格納することもできる。その場合、フラッシュメモリのリーダーライターがバス12に接続される。

【0052】

ユーザは、メディアドライブ19a, 19bに、任意のコンテンツが記録された記録媒体（CD, DVD, MDなど）を挿入し、リモートコントローラ40の所定の操作を行うことで、楽曲等を鑑賞することができる。例えば、ユーザがリモートコントローラ40を操作し、メディアドライブ19aによる再生指示を行うと、CPU11はメディアドライブ19aに対してコンテンツの再生を指示する。これに応じて、メディアドライブ19aは、装填されている記録媒体から、指定されたコンテンツにアクセスして読み出しを実行する。

【0053】

このようにして読み出されたコンテンツが、オーディオコンテンツである場合には、必要に応じてCPU11の処理によってデコード処理等が施された後、オーディオデータ処理部24に転送される。オーディオデータ処理部24においては、イコライジング等の音場処理や音量調整、D/A変換、増幅等の処理が施され、スピーカ部25から出力される。なお、スピーカ部25は、図4に示したような複数のスピーカ25a, 25bで構成され、ステレオで音声を出力することができる。

【0054】

また、メディアドライブ19a, 19bにて再生されたコンテンツは、CPU11の制御によって、HDD21にオーディオデータファイルとして蓄積することもできる。なお、このオーディオデータファイルの形式としては、CDフォーマットにおけるサンプリング周波数44.1KHzで16ビット量子化のデジタルオーディオデータとしてもよい。HDD21の容量を節約するために、所定方式にしたがって圧縮処理が施された形式の圧縮オーディオデータとされてもよい。また、圧縮方式としても限定されるものではないが、ATRAC (Advanced Transform Acoustic Coding、商標) 方式やMP3 (MPEG Audio Layer-3) 方式などを採用することができる。

【0055】

チューナ27は、例えばAM・FMラジオチューナとされ、CPU11の制御に基づいてアンテナ26で受信された放送信号を復調する。もちろんテレビチューナや衛星放送チ

ューナ、デジタル放送チューナなどとしてのチューナでもよい。復調された放送音声信号は、オーディオデータ処理部24において所要の処理が施され、スピーカ部25から放送音声として出力される。

【0056】

通信処理部22は、CPU11の制御に基づいて送信データのエンコード処理、受信データのデコード処理を行う。ネットワークインタフェース23は、通信処理部22でエンコードされた送信データを、ネットワーク30を介して所定の外部ネットワーク対応機器に送信する。また、ネットワークインタフェース23は、ネットワーク30を介して外部ネットワーク対応機器から送信されてきた信号を通信処理部22に受け渡す。通信処理部22は受信した情報をCPU11に転送する。ネットワーク30を介して受信する情報には、例えば、FM等で放送中の番組の関連情報や、CD等のタイトルに含まれる楽曲の情報がある。

【0057】

赤外線通信部28は、リモートコントローラ40との間で、赤外線等の無線の通信手段で通信を行う。そして、赤外線通信部28は、リモートコントローラ40から送られた信号に所定の処理を施し、CPU11に対して操作コマンドとして伝送する。CPU11は入力された操作コマンドに応答した機器としての動作が得られるように、所要の演算や制御を行う。

【0058】

なお、端末装置10の構成は、この図5の構成に限られるものではなく、更に多様に考えられる。例えばUSB(Universal Serial Bus)、IEEE1394、Bluetoothなどの通信方式による周辺機器とのインタフェースが設けられるようにしてもよい。そして、上記ネットワークインタフェース23によりネットワーク30を介してダウンロードしたオーディオのコンテンツや、上記USB、IEEE1394などのインタフェースを経由して転送されてきたオーディオのコンテンツについても、HDD21に対して記憶させることができる。またマイクロホンや外部のヘッドホンの接続に用いられる端子や、DVD再生時に対応するビデオ出力端子、ライン接続端子、光デジタル接続端子等が設けられてもよい。また、PCMCIAスロット、メモリカードスロットなどが形成され、外部の情報処理装置やオーディオ機器とデータのやりとりが可能とされてもよい。

【0059】

次に、本実施の形態のシステムにおけるプログラムモジュールの構成について説明する。なお、プログラムモジュールは端末装置10に実行させる処理を記述した情報であり、プログラムモジュールに基づいて端末装置10が所定の機能を実現することができる。以下の説明では、プログラムモジュールを実行することで実現される機能を、そのプログラムモジュールの名称で呼ぶこととする。

【0060】

図6は、端末装置のプログラムモジュール構成を示す図である。図6に示すように端末装置10のプログラムモジュールはOS上で動作するように構成されている。端末装置10は、各プログラムモジュールの機能によって、CDタイトル情報提供サーバ31、放送局サーバ32、音楽配信サーバ33、CDの物販を行うCDショップサーバ34、インターネットラジオサーバ35、総合サービスサーバ36、その他の各種サーバと通信を行うことができる。

【0061】

HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)メッセージプログラム111は、CDタイトル情報提供サーバ31、放送局サーバ32、CDショップサーバ34、および総合サービスサーバ36等の各種サーバとの間のやりとりをHTTP通信で行うものである。コミュニケーションプログラム112は、総合サービスサーバ36等と各種通信を行う通信モジュールである。

【0062】

コミュニケーションプログラム112の上位(ユーザインタフェースに近い機能)には、コ

コンテンツのコーデックを解釈して再生するコンテンツ再生モジュール113、著作権保護に関する情報を取り扱う著作権保護情報管理モジュール114が位置する。コンテンツ再生モジュール113の上位には、インターネットラジオの選局及び再生を行うインターネットラジオ選局再生モジュール118が設けられている。著作権保護情報管理モジュール114の上位には、楽曲購入及び試聴曲の再生を司る楽曲購入再生モジュール119が設けられている。

【0063】

それらインターネットラジオ選局再生モジュール118、楽曲購入再生モジュール119の上位にはXML (eXtensible Markup Language) ブラウザ151が設けられている。XML ブラウザ151は、各種サーバから送られるXML ファイルの内容を解釈し、表示装置17に対して画面表示を行う。また、端末装置10が総合サービス利用モードのときにユーザが端末装置10に対して行った入力内容はXML ブラウザ151で解釈される。そして、XML ブラウザ151から他のモジュールへ、入力内容に応じた処理要求等が渡される。例えば、XML ブラウザ151を介してユーザに選択された楽曲は楽曲購入再生モジュール119で購入され、ハードディスクコンテンツコントローラ117を介してHDD21に書き込まれる。

【0064】

コミュニケータプログラム112には、ライブラリ130の認証ライブラリ131が接続されている。認証ライブラリ131は、総合サービスサーバ36やその他の各種サーバの認証処理を行う。

【0065】

さらにコミュニケータプログラム112の上位には、データベースアクセスモジュール115、コンテンツデータアクセスモジュール116及びハードディスクコンテンツコントローラ117が設けられている。データベースアクセスモジュール115は、HDD21に構築された各種データベースにアクセスする。コンテンツデータアクセスモジュール116はHDD21に格納されたコンテンツにアクセスする。ハードディスクコンテンツコントローラ117はHDD21に格納されたコンテンツを管理する。

【0066】

ハードディスクコンテンツコントローラ117の上位には、関連情報表示モジュール120、チューナ選局再生/録音モジュール121、および楽曲購入再生モジュール119が設けられている。関連情報表示モジュール120は、ラジオ局が放送した楽曲のタイトル及びアーティスト名を表示装置17に表示する。チューナ選局再生/録音モジュール121は、ラジオ局を選局したり、当該ラジオ局から受信した楽曲のコンテンツをHDD21に録音したりする。

【0067】

例えば、オーディオユーザインタフェース (Audio UI) 152を介して選局されたラジオ局から受信した楽曲は、コンテンツデータアクセスモジュール116を介してHDD21へ書き込まれる。

【0068】

関連情報表示モジュール120は、チューナ選局再生/録音モジュール121によって現在ラジオ局が放送している楽曲のタイトルやアーティスト名を関連情報としてCDタイトル情報提供サーバ31、放送局サーバ32等からHTTPメッセージプログラム111経由で受信し、これをオーディオユーザインタフェース152を介して表示装置17に表示する。

【0069】

なお、オーディオユーザインタフェース152を介して表示装置17に表示した関連情報は、ライブラリ130のクリップライブラリ132に一時的に記憶させることができる。また、関連情報は、ユーザからの指示に従って最終的にはデータベースアクセスモジュール115を介してHDD21へ記憶させることもできる。

【0070】

さらに端末装置 10 のプログラムモジュールとしては、CD を再生するための CD 再生モジュール 141 と、HDD 21 を再生するための HDD 再生モジュール 142 とが含まれており、再生結果をオーディオデータ処理部 24 及びスピーカ部 25 を介して出力する。

【0071】

このような構成の端末装置 10 において、サーバから関連情報を取得し、その関連情報をクリップすることができる。なお、クリップと同時に、楽曲の検索や購入処理を行うこともできる。

【0072】

図 7 は、第 1 の識別コードと第 2 の識別コードとに基づく特典取得例を示す図である。この例では、放送局サーバ 32 から放送された楽曲の関連情報 91 に付加された第 1 の識別コード 92 を利用して、音楽配信サーバ 33 から楽曲データ 95 のコンテンツを購入する。

【0073】

具体的には、放送局サーバ 32 には、関連情報テーブル 32a と識別コードテーブル 32b とが予め用意されている。関連情報テーブル 32a は、放送される各楽曲の関連情報が登録されている。

【0074】

識別コードテーブル 32b には、第 1 の識別コードが放送時間帯毎に登録されている。第 1 の識別コードとは、楽曲を購入したユーザが特典を受けるために必要なコードである。放送時間帯は、例えば番組毎に区切られている。

【0075】

各番組に登録された第 1 の識別コードは、例えば、その番組のスポンサー企業が提供する特典（楽曲の購入に対するボーナストラックの付加など）を受ける権利を示している。なお、図 7 の例では、番組毎に第 1 の識別コードが登録されているが、放送される楽曲毎に第 1 の識別コードを登録することもできる。

【0076】

なお、第 1 の識別コードが登録されていない時間帯もある。すなわち、スポンサー企業等から何らかのサービス提供が行われている番組の放送時間帯に対してのみ、第 1 の識別コードが登録されている。放送局 37 では、例えば、第 1 の識別コードが設定される番組内のコメントにおいて、関連情報を取得することにより得られる特典の内容をアナウンスする。これにより、番組を聴いていたユーザのみが特典の存在を知ることができ、その特典を受けるための第 1 の識別コードを受け取ることができる。

【0077】

なお、第 1 の識別コードは、特定の放送局の特定の時間帯における楽曲用に固有に割り当てることができる。この場合、同じ楽曲であっても、異なる時刻に放映された場合には、それぞれ異なる第 1 の識別コードを提供することができる。また、第 1 の識別コードを楽曲に対して固有に割り当てることができる。この場合、複数の楽曲に共通の第 1 の識別コードを割り当ててもよい。これらにより、放送視聴率向上に対してよりきめ細かく対応することが可能となる。

【0078】

端末装置 10 は、一定間隔でポーリングを行い、放送局サーバ 32 に対して現在放送されている楽曲の関連情報 91 の取得要求を出す。放送局サーバ 32 は、現在放送されている楽曲の関連情報 91 と、現在の時間帯に設定されている第 1 の識別コード 92 とを端末装置 10 に対して送信する。

【0079】

端末装置 10 は、受信した関連情報 91 を表示装置 17 に表示する。ここで、ユーザからクリップを指示する操作入力が行われると、端末装置 10 は、受信した関連情報 91 と第 1 の識別コード 92 との組を HDD 21 等に格納する。

【0080】

その後、ユーザが端末装置 10 を操作して、音楽配信サーバ 33 にアクセスする。このとき端末装置 10 は、ユーザ認証を受けるために必要なユーザ識別情報 93 を音楽配信サーバ 33 に送信し、音楽配信サーバ 33 からの認証確認を待機する。

【0081】

端末装置 10 は、音楽配信サーバ 33 から認証確認を得ると、楽曲データを購入するための購入要求情報 94 と共に、第 1 の識別コード 92 を音楽配信サーバ 33 に送信する。

購入要求情報 94 と第 1 の識別コード 92 とを受け取った音楽配信サーバ 33 は、購入要求情報 94 にて要求された楽曲データ 95 を用意する。その後、音楽配信サーバ 33 は、第 1 の識別コード 92 が有効かどうか判定し、有効であると判定されれば、第 1 の識別コード 92 に応じた付加データ 96 と、楽曲を購入したユーザが更に CD などのコンテンツを購入する際に受けることのできる特典を示す第 2 の識別コード 97 とを発行する。そして音楽配信サーバ 33 は、楽曲データ 95、付加データ 96、及び第 2 の識別コード 97 を端末装置 10 に送信する。

【0082】

付加データ 96 は、例えば、端末装置 10 に記録されている第 1 の識別コードの削除指示や、ボーナストラックのような付加サービスである。

第 2 の識別コード 97 は、楽曲を購入したユーザが更に CD などのコンテンツを購入する際、特典を受けるために必要なコードである。第 2 の識別コード 97 には、特典を提供することのできる業者や特典の内容が記載されている。特典としては、特定の CD の割引などを用意することができる。第 2 の識別コード 97 を取得したユーザは、端末装置 10 を用いて、第 2 の識別コード 97 が有効となる CD ショップサーバなどにアクセスすることで、例えば特定の CD を割引で購入することができる。

【0083】

次に、放送局 37 の番組の中で放送された楽曲に関連した関連情報を、端末装置 10 が放送局サーバ 32 から取得してクリップする際に、端末装置 10、放送局 37、及び放送局サーバ間で行われるやり取りについて、シーケンス図を用いて説明する。

【0084】

図 8 は、端末装置が放送局サーバから取得した関連情報をクリップする際のシーケンス図である。なお、放送局 37 は、番組の放送スケジュールに従って、順次番組の放送を行っているものとする。以下、図 8 に示す処理をステップ番号に沿って説明する。

【0085】

[ステップ S1] 放送局 37 は番組の放送を開始する。

[ステップ S2] 放送局 37 は、番組の中で放送する楽曲の放送開始を放送局サーバ 32 へ通知する。

【0086】

[ステップ S11] 放送局サーバ 32 は、関連情報テーブル 32a を参照し、端末装置 10 への提供対象とするために以前保持していた関連情報を、ステップ S1 で放送局 37 から通知された楽曲に関連した関連情報に更新する。

【0087】

[ステップ S21] 端末装置 10 は、ステップ S1 で放送局 37 が放送を開始した番組を受信して聴取し、この番組の中で放送が開始された楽曲についても受信して聴取し、ステップ S22 に処理を進める。

【0088】

[ステップ S22] 端末装置 10 は、ステップ S21 で受信した楽曲に関連した関連情報の取得要求を行う要求情報を、所定間隔（例えば 30 秒間隔）で放送局サーバ 32 へ送信する。すなわち、端末装置 10 は、受信中の楽曲の関連情報を取得するためのポーリングを行う。

【0089】

[ステップ S12] 放送局サーバ 32 は、ステップ S22 で端末装置 10 から送信された要求情報を受信すると、識別コードテーブル 32b を参照し、現在提供対象として保持

している楽曲の関連情報に対して、現在の時間帯に対応する第1の識別コードを付加する。そして放送局サーバ32は、ステップS13に処理を進める。

【0090】

【ステップS13】放送局サーバ32は、関連情報と第1の識別コードとを、ネットワーク30を介して端末装置10に送信する。なお第1の識別コードは、この番組を受信しているどのユーザに対しても、同一の内容で送信される。

【0091】

【ステップS23】端末装置10は、ステップS13で放送局サーバ32から送信された関連情報と第1の識別コードとを受信すると、受信した関連情報の内容を表示装置17に表示し、ステップS24に処理を進める。ユーザは、表示装置17を参照することで、現在放送中の楽曲の曲タイトル、アーティスト名などの関連情報を知ることができる。なお、本実施の形態における関連情報には、タイトル、アーティスト名の他に、CD番号、楽曲を放送した供給元である放送局37を特定するための放送局識別情報、およびその楽曲が収録されている記録媒体を特定する媒体識別情報についても含まれている。

【0092】

【ステップS24】端末装置10は、前回の取得要求から30秒間を経過すると、放送局サーバ32へ要求情報を送信し、関連情報の取得要求を再度行う。

【ステップS14】放送局サーバ32は、ステップS24で端末装置10から送信された要求情報を受信すると、識別コードテーブル32bを参照し、現在提供対象として保持している楽曲の関連情報に対して、現在の時間帯に対応する第1の識別コードを付加する。そして放送局サーバ32は、ステップS15に処理を進める。

【0093】

【ステップS15】放送局サーバ32は、再度楽曲の関連情報と第1の識別コードとを端末装置10へネットワーク30を介して提供する。

【ステップS25】端末装置10は、ステップS14で放送局サーバ32から送信された関連情報と第1の識別コードとを受信すると、受信した関連情報の内容を表示装置17に表示する。

【0094】

端末装置10では、放送局サーバ32によって現在提供対象として保持している楽曲の関連情報が次に放送される楽曲の関連情報に更新されない限り、楽曲の関連情報を取得することになり、更新されるまで表示装置17に楽曲の関連情報を表示する。

【0095】

【ステップS26】ここで、ユーザが端末装置10に対して、表示装置17に表示された関連情報に対するクリップの指示を行うと、端末装置10は、関連情報をHDD21にクリップすると共に、第1の識別コードも関連情報と対応付けてHDDに記憶し、ステップS27に処理を進める。

【0096】

クリップした場合、端末装置10は、クリップした楽曲の関連情報に続いて他の楽曲の関連情報を放送局サーバ32から取得し、これらについてもクリップすることができる。クリップされた関連情報により、端末装置10のHDD21内にデータベースが構築される。

【0097】

【ステップS27】端末装置10は、表示装置17にクリップした関連情報を改めて表示し、ユーザからの検索要求を受け付ける。

次に、関連情報の構成例について説明する。

【0098】

図9は、関連情報の構成例を示す図である。図9に示すように、関連情報50には、曲タイトルやアーティスト名など楽曲に関連した一連の情報が設定されている。

曲タイトルは、楽曲の名称であり、サーバから送られる関連情報に含まれるデータである。

【0099】

アーティスト名は、楽曲を演奏しているアーティストの名称であり、サーバから送られる関連情報に含まれるデータである。

クリップ時刻はクリップした時刻であり、クリップ処理を実行したときの端末装置10の内部クロックの時刻が設定される。

【0100】

CD番号は、楽曲が収録されているCDの識別番号であり、サーバから送られる関連情報に含まれる情報である。なお、CD番号は、CDショップがCDを特定するために用いる識別番号であり、CD番号の体系には現状2種類ある。どちらの番号体系を用いているかはCDショップによって異なる。そこで、関連情報を提供したサーバで使用しているコード体系を識別する情報を、クリップした関連情報に含めてもよい。

【0101】

クリップ場所はクリップした関連情報に対応するコンテンツ（ソース）の所在を示すデータである。たとえば、MDに記録された楽曲を再生中にその楽曲の関連情報をサーバから取得し、クリップをした場合、クリップ場所として「MD」が設定される。

【0102】

図9の例では、曲タイトルは「雨のち晴れ」、アーティスト名は「ファルコンズ」、クリップ時刻は「2003/3/8 19:20」（2003年3月8日 19時20分）、CD番号は「No. 01234567」、クリップ場所は「MD」である。

【0103】

なお、項目はクリップの種類によって様々であり、目的によってクリップの項目を変更することもできる。

次に、第1の識別コードの構成例について説明する。

【0104】

図10は、第1の識別コードの構成例を示す図である。図10に示すように、第1の識別コード60には、「発行者」の欄60a、「目的」の欄60b、「有効な相手」の欄60c、「有効期限」の欄60d、及び「コードID」の欄60eが設けられている。

【0105】

「発行者」の欄60aには、第1の識別コード60を発行するサービス業者を表す名称が設定される。ここでは、放送局サーバ32を運営する放送局（FM品川）の名称が設定される。

【0106】

「目的」の欄60bには、例えばボーナストラックAなど、第1の識別コード60を利用して楽曲を購入したユーザに提供される特典の内容が設定される。

「有効な相手」の欄60cには、第1の識別コード60を利用して楽曲を購入したユーザに対して特典を提供するサービス業者を表す名称が設定される。この情報は、特典を提供するサービス業者と提供しないサービス業者とを識別するために用いられる。ここでは、音楽配信サーバ33によって提供される音楽配信サイト名（音楽配信サイトB）が設定される。

【0107】

「有効期限」の欄60dには、第1の識別コード60により特典を受けることができる期間の最終日が設定される。なお、有効期限が付加されてもよいし、付加されなくてもよい。

【0108】

「コードID」の欄60eには、発行された第1の識別コード60を一意に識別するための番号が設定される。

このような、楽曲の関連情報と第1の識別コードとの組が端末装置10内に複数格納される。なお、関連情報は、木構造で保存することができる。

【0109】

次にクリップした関連情報の保存形式について説明する。

図11は、クリップした関連情報の保存形式を示す図である。クリップした関連情報50はリスト形式で保存される。リストとしては、一曲単位でクリップしたリスト61とクリップした楽曲集合のリスト62～64とが設けられる。一曲単位でクリップしたリスト61は1つだけ設けられるが、クリップした楽曲集合のリスト62～64は複数設けることができる。

【0110】

一曲単位でクリップしたリスト61は、楽曲を一曲毎に指定して取得された関連情報の保存場所（たとえば、フォルダあるいはディレクトリ）である。また、クリップした楽曲集合のリスト62～64は、楽曲の集合をまとめて取得したときの各楽曲の関連情報の保存場所（たとえば、フォルダあるいはディレクトリ）である。

【0111】

なお、クリップした楽曲集合のリスト62～64には、楽曲集合に応じた適当な名前が設定される。たとえば、CD内の複数の楽曲の関連情報を保存した場合、そのCDのタイトルが、クリップした楽曲集合のリストの名前に設定される。また、FM放送の番組内で放送される楽曲集合の関連情報を保存した場合、その番組の番組名や放送日時等が、クリップした楽曲集合のリストの名前に設定される。さらに、ネットワーク30を介した楽曲検索で検出された楽曲集合を保存した場合、クリップした楽曲集合のリストの名前に検索キーや検索日時を設定することもできる。このように、その名前は楽曲集合の種類により様々である。

【0112】

各リストには、クリップされた関連情報が関連付けられている。一曲単位でクリップしたリスト61には、1曲目の関連情報51a、2曲目の関連情報51b、3曲目の関連情報51cなどが関連付けられている。クリップした楽曲集合のリスト62には、1曲目の関連情報52a、2曲目の関連情報52b、3曲目の関連情報52cなどが関連付けられている。クリップした楽曲集合のリスト63には、1曲目の関連情報53a、2曲目の関連情報53b、3曲目の関連情報53cなどが関連付けられている。クリップした楽曲集合のリスト64には、1曲目の関連情報54a、2曲目の関連情報54b、3曲目の関連情報54cなどが関連付けられている。

【0113】

新たに取得した関連情報50を保存する場合、関連情報50が一曲単位で取得されたのか、集合として取得されたのかにより、関連付けられるリストが決定される。一曲単位で取得された場合、一曲単位でクリップしたリスト61の最後尾に、関連情報50が関連付けられる。楽曲の集合で取得された場合、クリップした楽曲集合のリストが新たに生成され、その集合リストに関連情報50が関連付けられる。

【0114】

なお、クリップした楽曲集合のリスト62～64は楽曲の集合であればよく、FM放送で放送された楽曲のリスト（オンエアーリスト）やアルバム、プレイリスト、あるいは検索結果として得られた楽曲の集合等でもよい。このように保存形式を取ることで、楽曲単体や様々な楽曲の集合のソース（CD、MD、HDD、TV等の再生、配信音楽の受信、関連情報の閲覧等）でクリップしたデータを同様に扱えるという利点がある。

【0115】

このようにして保存された関連情報と第1の識別コードとを利用して、音楽配信サーバ33から楽曲を購入すると、第1の識別コードに応じた特典を得ることができ、また第1の識別コードを用いて発行された第2の識別コードを取得することで、更にCDなどのコンテンツを購入する際に特典を受ける権利を得ることができる。

【0116】

次に、ユーザが音楽配信サーバ33にて楽曲を購入する際に、端末装置10と音楽配信サーバ33との間で行われるやり取りについて、シーケンス図を用いて説明する。

図12は、楽曲購入の際のシーケンス図である。以下、図12に示す処理をステップ番号に沿って説明する。

【0117】

【ステップS31】 端末装置10は、音楽配信サーバ33のユーザ認証を得るために、予め端末装置10に付与されているユーザIDやパスワードなどのユーザ識別情報を音楽配信サーバ33に送信する。なお、このとき、端末装置10に設定したニックネームも音楽配信サーバ33に送信するようにしてもよい。

【0118】

ニックネームは、1人のユーザが複数の端末装置を使用するときに、各端末装置を識別するために設定する名称である。同一ユーザが使用する複数の端末装置には、それぞれ異なるニックネームが設定される。

【0119】

ユーザが新しい端末装置を購入した際には、関連情報取得等のサービスを最初に受ける際に、ニックネームを端末装置に設定する。すると、アクセスされたサーバでは、設定されたニックネームが、そのユーザの他の端末装置にニックネームと重複しないことを確認後、端末装置に対して、設定されたニックネームの登録を許可する。

【0120】

【ステップS41】 音楽配信サーバ33は、ステップS31で端末装置10から送信されたユーザ識別情報を受け取り、ユーザの認証を行った後、認証結果を端末装置10に回答する。

【0121】

【ステップS32】 端末装置10は、音楽配信サーバ33からの認証結果を受け取って認証が得られたことを確認し、ステップS33に処理を進める。

【ステップS33】 端末装置10は、ユーザ認証の成功確認後、ユーザからの操作入力に応じて、検索要求を音楽配信サーバ33に送信する。なお、検索要求における検索キーとして、クリップした関連情報内の一部のデータ（例えば、CD番号）を利用することができる。

【0122】

また、クリップした関連情報に基づく検索に限らず、ナウオンエアーにより取得したクリップ前の関連情報や、オンエアーリストで取得した関連情報を、クリップせずにダイレクトに検索に使用することもできる。

【0123】

【ステップS42】 音楽配信サーバ33は、検索要求に応じて、自己のCDに関するデータベースを検索し、ステップS43に処理を進める。

【ステップS43】 音楽配信サーバ33は、ステップS42での検索結果を示す結果情報を端末装置10に送信する。

【0124】

【ステップS34】 端末装置10は、ステップS43で音楽配信サーバ33から送信された結果情報を受信すると、それを表示装置17に表示して、検索結果をユーザに通知する。端末装置10は、ユーザからの購入指示に応じて、楽曲の購入を要求する購入要求情報と共に、購入する楽曲の関連情報と対応付けられてHDD21に記憶されている第1の識別コードを音楽配信サーバ33に送信する。

【0125】

なお、端末装置10は、任意の関連情報に対応する識別コードを送信することができる。例えば、クリップした関連情報以外に、ナウオンエアーにより取得したクリップ前の関連情報や、オンエアーリストで取得した関連情報でも、対応する第1の識別コードを送信することができる。また、端末装置10は、音楽配信サーバ33において特典を受けることができる複数の第1の識別コードをまとめて、音楽配信サーバ33に対して送信してもよい。音楽配信サーバ33で特典を受けることができるかどうかは、第1の識別コードの「有効な相手」の欄を参照して判断することができる。

【0126】

あるいは、端末装置10で記憶している全ての第1の識別コードを音楽配信サーバ33

に送信してもよい。この場合、音楽配信サーバ33側で、使用可能な第1の識別コードを選別して、特典を判定することとなる。

【0127】

なお、第1の識別コードと共に、クリップされた関連情報を音楽配信サーバ33へ送信してもよい。

なお、第1の識別コードの送信は、ユーザからの操作入力に応じて行ってもよいし、自動的に行ってもよい。たとえば、CD番号による検索の結果、該当するCDが検出された場合、自動的に第1の識別コードを送信してもよい。

【0128】

また、ステップS33における検索要求とともに、第1の識別コードを送信することもできる。

【ステップS44】音楽配信サーバ33は、ステップS34で端末装置10から送信された購入要求情報と第1の識別コードとを受信すると、購入要求情報にて要求された楽曲データを読み込み、ステップS45に処理を進める。

【0129】

【ステップS45】音楽配信サーバ33は、ステップS44で受信した第1の識別コードの認証を行う。認証には、第1の識別コードの「有効な相手」の欄を用いる。即ち、音楽配信サーバ33は、「有効な相手」の欄に記載された名称を参照し、受信した第1の識別コードが自分宛てかどうかを判定する。例えば、音楽配信サーバ33に音楽配信サイトBという名称が設定されているとき、受信した第1の識別コードの「有効な相手」の欄に音楽配信サイトBと設定されていれば、音楽配信サーバ33は、受信した第1の識別コードを自分宛として判定する。このような判定の結果、第1の識別コードが自分宛てであればステップS46に処理を進め、自分宛でなければステップS49に処理を進める。

【0130】

【ステップS46】音楽配信サーバ33は、受信した第1の識別コードの「有効期限」の欄を参照し、「有効期限」の欄に記載された期日内であるかどうかを判定する。期日内であればステップS47に処理を進め、期日内でなければステップS49に処理を進める。

【0131】

【ステップS47】音楽配信サーバ33は、受信した第1の識別コードの「目的」の欄に記載された特典に対応する付加データ（例えばボーナス 트랙など）を発行する。また、音楽配信サーバ33は、第1の識別コードをユーザが使用できる回数（使用可能回数）を管理しており、その使用可能回数が超えていない場合にのみ、特典を与えることができる。そして、音楽配信サーバ33は、ステップS48に処理を進める。

【0132】

【ステップS48】音楽配信サーバ33は、楽曲を購入したユーザが更にCDなどのコンテンツを購入する際に特典を受けるための権利を示す第2の識別コードを発行し、ステップS49に処理を進める。第2の識別コードの具体的な内容については後述する。

【0133】

【ステップS49】音楽配信サーバ33は、ステップS44で読込んだ楽曲データ、ステップS47で発行した付加データ、及び第2の識別コード（発行された場合）を端末装置10に送信する。

【0134】

【ステップS50】その後、音楽配信サーバ33は、ユーザ毎に、そのユーザに提供した付加データを管理する。具体的には、音楽配信サーバ33は、ユーザIDやパスワードなどのユーザ識別情報と、ユーザに提供した付加データの履歴とを関連付けたテーブルを用いることで、ユーザに提供した付加データを管理する。また、端末装置10を特定するID（ニックネーム）と関連付けて管理することでもできる。これにより、特定のユーザ、または端末装置10の特典の行使をコントロールすることができる。

【0135】

【ステップS35】端末装置10では、ステップS49で音楽配信サーバから送信された楽曲データ、付加データ、及び第2の識別コードの受信後、付加データの内容に応じて第1の識別コードを処理する。たとえば、使用された第1の識別コードの削除等を行う。

【0136】

例えば、音楽配信サーバ33から端末装置10内部の当該第1の識別コードを無効とするか否かについての情報が、付加データで渡される。その場合、端末装置10は、その情報に応じた処理を行う。

【0137】

また、第1の識別コードの処理としては、第1の識別コードを無効とする以外にも、例えば、特典享受回数を指定回数分減らす処理がある。また、第1の識別コードを、特典を受ける前と同じ状態にするようにしてもよい。

【0138】

次に、第2の識別コードの構成例について説明する。

図13は、第2の識別コードの構成例である。図13に示すように、第2の識別コード70には、第1の識別コード60と同様に、「発行者」の欄70a、「目的」の欄70b、「有効な相手」の欄70c、「有効期限」の欄70d、及び「コードID」の欄70eが設けられている。

【0139】

「発行者」の欄70aには、第2の識別コード70を発行するサービス業者を表す名称が設定される。ここでは、音楽配信サーバ33によって提供される音楽配信サイト名（音楽配信サイトB）が設定される。

【0140】

「目的」の欄70bには、例えば特定のCDの割引など、音楽配信サーバ33から楽曲を購入したユーザが更にCDなどのコンテンツを購入する際に、ユーザに対して提供される特典の内容が設定される。

【0141】

「有効な相手」の欄70cには、例えばCDショップAなど、楽曲を購入したユーザが更にCDなどのコンテンツを購入する際に、ユーザに対して特典を提供するサービス業者を表す名称が設定される。この情報は、特典を提供するサービス業者と提供しないサービス業者とを識別するために用いられる。なお、同様の特典を提供する複数のサービス業者の名称を設定することもできる。このように、第1の識別コード60の「有効な相手」の欄60cに設定されるサービス業者と、第2の識別コード70の「有効な相手」の欄70cに設定されるサービス業者とをそれぞれ異なるサービス業者とすることで、サービス業者を連携させたサービスの利用向上を促進することが可能となる。

【0142】

「有効期限」の欄70dには、第2の識別コード70により特典を受けることができる期間の最終日が設定される。なお、有効期限が付加されてもよいし、付加されなくてもよい。

【0143】

「コードID」の欄70eには、発行された第2の識別コード70を一意に識別するための番号が設定される。

ここで、CDショップサーバ34は上記「有効な相手」の欄70cに設定されたCDショップAによって運営されているものとする。第2の識別コード70を取得したユーザは、端末装置10を通じてCDショップサーバ34にアクセスし、このサーバが提供するサイト上でCDを購入することで、上記「目的」の欄70bに記載された特典（例えば特定CDの割引）を受けることができる。

【0144】

また、第2の識別コードを可搬型の記録媒体に記録して、その記録媒体を店頭に持ち込むことで、店頭におけるCD購入において特典を受けることも可能である。

図14は、店頭での購入手続きを示す図である。ユーザは、端末装置10に記憶されて

いる第2の識別コードを、可搬型の記録媒体に記録する。例えば、半導体のメモリ80に記録する。メモリ80は、例えば、フラッシュメモリである。

【0145】

ユーザは、識別コードが書き込まれたメモリ80を持って、CDショップ等の店頭に行く。そして、店内で第2の識別コードにより特典が受けられるCD等を購入する際に、店員にメモリ80を渡す。

【0146】

店員は、店頭に備えられた店頭端末装置39においてメモリ80から識別コードを読取る。そして、ユーザに対するCD等の販売に際し、第2の識別コードに応じた特典が与えられる。

【0147】

なお、店頭端末装置39のハードウェア構成は、図5に示した端末装置10と同様のハードウェア構成で実現することができる。ただし、メディアドライブとしては、メモリ80のリーダライタが必要である。また、店頭端末装置39は、チューナ27や赤外線通信部28を備えてなくてもよい。

【0148】

ところで、ユーザが購入した楽曲データには、中身のないトラックとしてダミートラックが付加されている。第2の識別コードは、音楽配信サーバ33から送信される際、このダミートラックに格納されて送信される。

【0149】

ユーザが第2の識別コードをメモリ80に読込ませる際には、第2の識別コードが格納されたダミートラックをメモリ80に読込ませる。このとき、第2の識別コードに対してメモリ80への読込み回数の記録を行うことで、ダミートラックのチェックアウト回数を管理することができる。

【0150】

店頭端末装置39は、メモリ80を読込んで所定の処理を行うことで、ユーザに第2の識別コードに記載された特典を提供することができる。

図15は、店頭端末装置の処理手順を示すフローチャートである。以下、図15に示す処理をステップ番号に沿って説明する。

【0151】

【ステップS51】店頭端末装置39は、メモリ80からダミートラックに格納された第2の識別コードを読込み、ステップS52へ処理を進める。

【ステップS52】店頭端末装置39は、ユーザIDやパスワードなどのユーザ識別情報の入力を受付ける。

【0152】

【ステップS53】店頭端末装置39は、ステップS52で入力されたユーザ識別情報を基にユーザ認証を行う。ユーザ認証は、ネットワーク30を介して接続された他のサーバに依頼することもできる。例えば、店頭端末装置39は、ユーザから入力されたユーザ識別情報とを、ネットワーク30を介して接続されたサーバ（例えば、CDショップサーバ34）に送信する。すると、サーバで認証処理が行われ、認証結果が店頭端末装置39に返される。

【0153】

【ステップS54】店頭端末装置39は、ユーザ認証に成功した場合、第2の識別コードに応じた特典を判定する。

【ステップS55】店頭端末装置39は、CDの販売に応じた特典の提供を行う。例えば、追加コンテンツの提供であれば、その追加コンテンツをメモリ80に書き込む。また、特定CDの割引であれば、POS(Point Of Sale)等の端末機能と連携し、特定CDの販売額の割引処理を行う。

【0154】

【ステップS56】店頭端末装置39は、メモリ80に記録されたダミートラックのチ

チェックアウト回数を調べ、所定回数に達していたら、第2の識別コードを消去する。このように、第2の識別コードをダミートラックに格納することで、ダミートラックのメモリ80へのチェックアウト回数を制限することができ、著作権管理を有効に行うことが可能となる。

【0155】

このようにすることにより、以前では不可能であった店頭での特典を受けることもできる。また、携帯用端末において、取得した第2の識別コードを表示できる装置を組み込み、これを店頭で表示することで、CDショップでCD購入の際に特典を受ける手段も考えられる。

【0156】

以上のように、第1の識別コードの認証を受けて第2の識別コードを新たに発行することで、現在放送中の楽曲やオンエアーリストに登録された楽曲を購入したユーザは、更にCDなどのコンテンツを購入する際に特典を受けるための権利を得ることが可能となり、実際にCDショップサーバ34にてCDを購入する際に、例えば特定CDを割引で購入することができる。

【0157】

また、第1の識別コードには、有効期限が設定されているため、サービスの提供期間を限定することができる。

なお上記の説明では、楽曲を購入したユーザが更にCDを購入する場合について説明したが、逆にCDを購入したユーザが楽曲を購入する場合についても、第1の識別コードと第2の識別コードとを用いることで、CDを購入したユーザは、更に楽曲を購入する際に特典を受けるための権利を得ることができる。

【0158】

また上記の説明では、音楽配信サーバ33は、ユーザに発行した付加データをテーブルを用いてユーザ毎に管理するとしたが、さらに第1の識別コードの受信回数をユーザ毎に管理するようにしてもよい。これにより、例えばユーザが1つの識別コードを何回使用したのかを管理できるので、音楽配信サーバ33において、識別コードの使用可能回数以上、特典を与えないように管理できる。また、端末装置10から送信される第1の識別コードの数に応じた付加データを発行することが可能となり、楽曲購入の促進を図ることができる。

【0159】

また、端末装置10及び各サーバの処理機能は、コンピュータによって実現することができる。その場合、端末装置10及び各サーバが有すべき機能の処理内容を記述したプログラムが提供される。そのプログラムをコンピュータで実行することにより、上記処理機能がコンピュータ上で実現される。処理内容を記述したプログラムは、コンピュータで読み取り可能な記録媒体に記録しておくことができる。コンピュータで読み取り可能な記録媒体としては、磁気記録装置、光ディスク、光磁気記録媒体、半導体メモリなどがある。磁気記録装置には、ハードディスク装置(HDD)、フレキシブルディスク(FD)、磁気テープなどがある。光ディスクには、DVD、DVD-RAM、CD-ROM、CD-R(Recordable)/RW(ReWritable)などがある。光磁気記録媒体には、MO(Magneto-Optical disk)などがある。

【0160】

プログラムを流通させる場合には、例えば、そのプログラムが記録されたDVD、CD-ROMなどの可搬型記録媒体が販売される。また、プログラムをサーバコンピュータの記憶装置に格納しておき、ネットワークを介して、サーバコンピュータから他のコンピュータにそのプログラムを転送することもできる。

【0161】

プログラムを実行するコンピュータは、例えば、可搬型記録媒体に記録されたプログラムもしくはサーバコンピュータから転送されたプログラムを、自己の記憶装置に格納する。そして、コンピュータは、自己の記憶装置からプログラムを読み取り、プログラムに従

った処理を実行する。なお、コンピュータは、可搬型記録媒体から直接プログラムを読み取り、そのプログラムに従った処理を実行することもできる。また、コンピュータは、サーバコンピュータからプログラムが転送されるごとに、逐次、受け取ったプログラムに従った処理を実行することもできる。

【図面の簡単な説明】

【0162】

【図1】 本発明の原理を説明するための原理図である。

【図2】 本発明の実施の形態に係るネットワークシステムを示す図である。

【図3】 CDタイトル情報提供サーバのハードウェア構成例を示す図である。

【図4】 端末装置の外観を示す図である。

【図5】 端末装置のハードウェア構成を示すブロックである。

【図6】 端末装置のプログラムモジュール構成を示す図である。

【図7】 第1の識別コードと第2の識別コードとに基づく特典取得例を示す図である。

。

【図8】 端末装置が放送局サーバから取得した関連情報をクリップする際のシーケンス図である。

【図9】 関連情報の構成例を示す図である。

【図10】 第1の識別コードの構成例を示す図である。

【図11】 クリップした関連情報の保存形式を示す図である。

【図12】 楽曲購入の際のシーケンス図である。

【図13】 第2の識別コードの構成例を示す図である。

【図14】 店頭での購入手続きを示す図である。

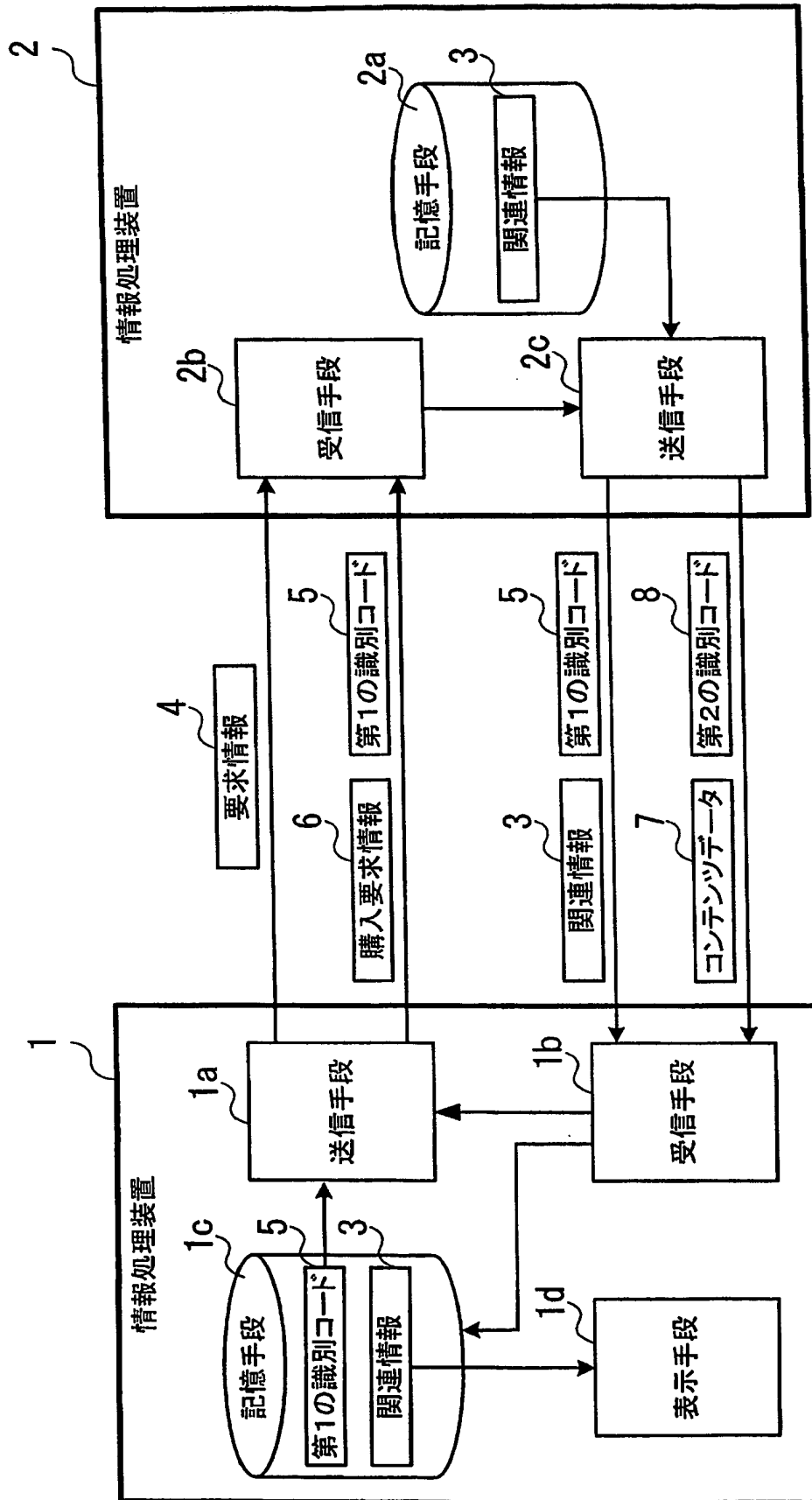
【図15】 店頭端末装置の処理手順を示すフローチャートである。

【符号の説明】

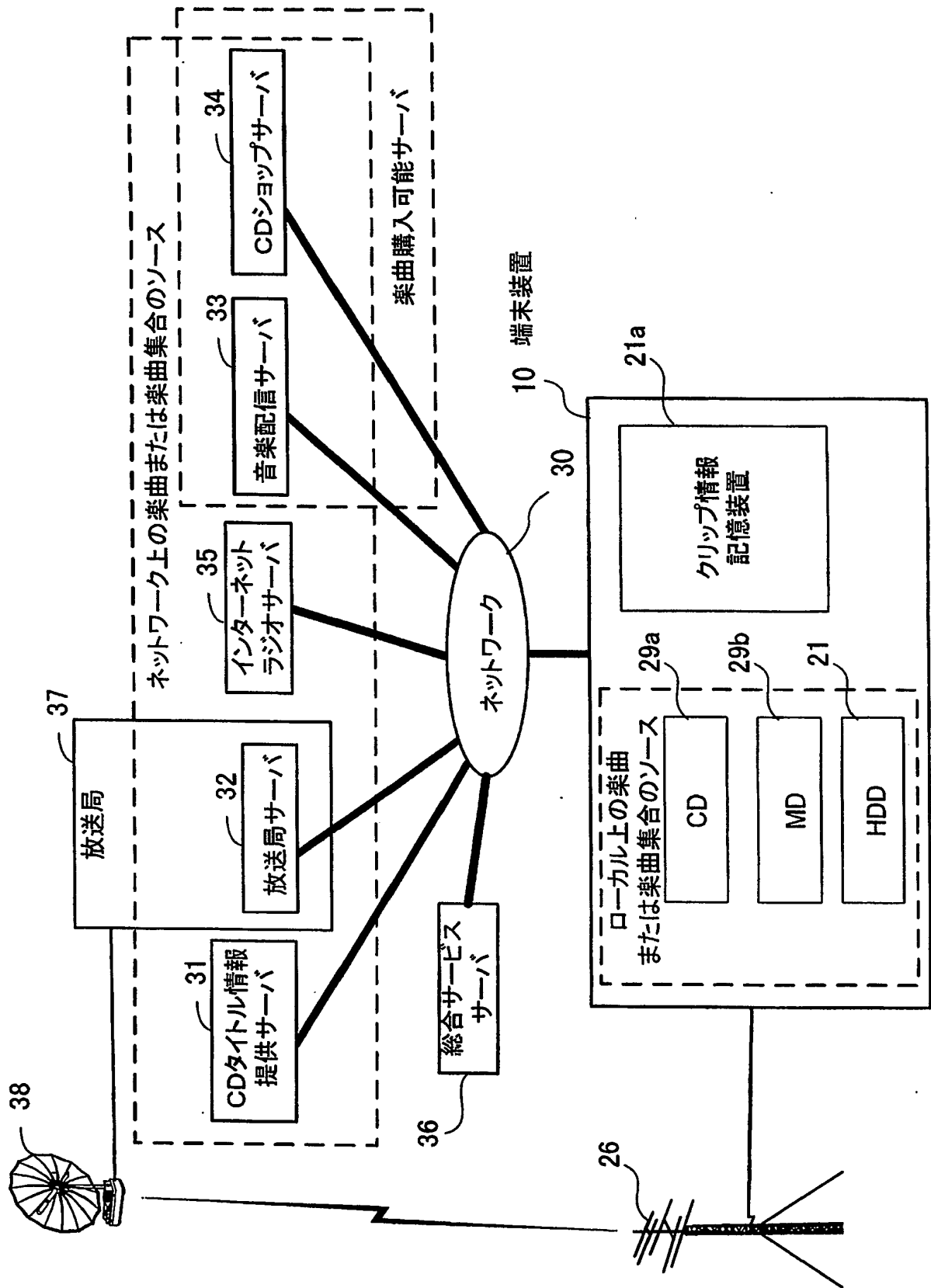
【0163】

1, 2……情報処理装置、1 a, 2 c……送信手段、1 b, 2 b……受信手段、1 c, 2 a……記憶手段、1 d……表示手段、3……関連情報、4……要求情報、5……第1の識別コード、6……購入要求情報、7……コンテンツデータ、8……第2の識別コード

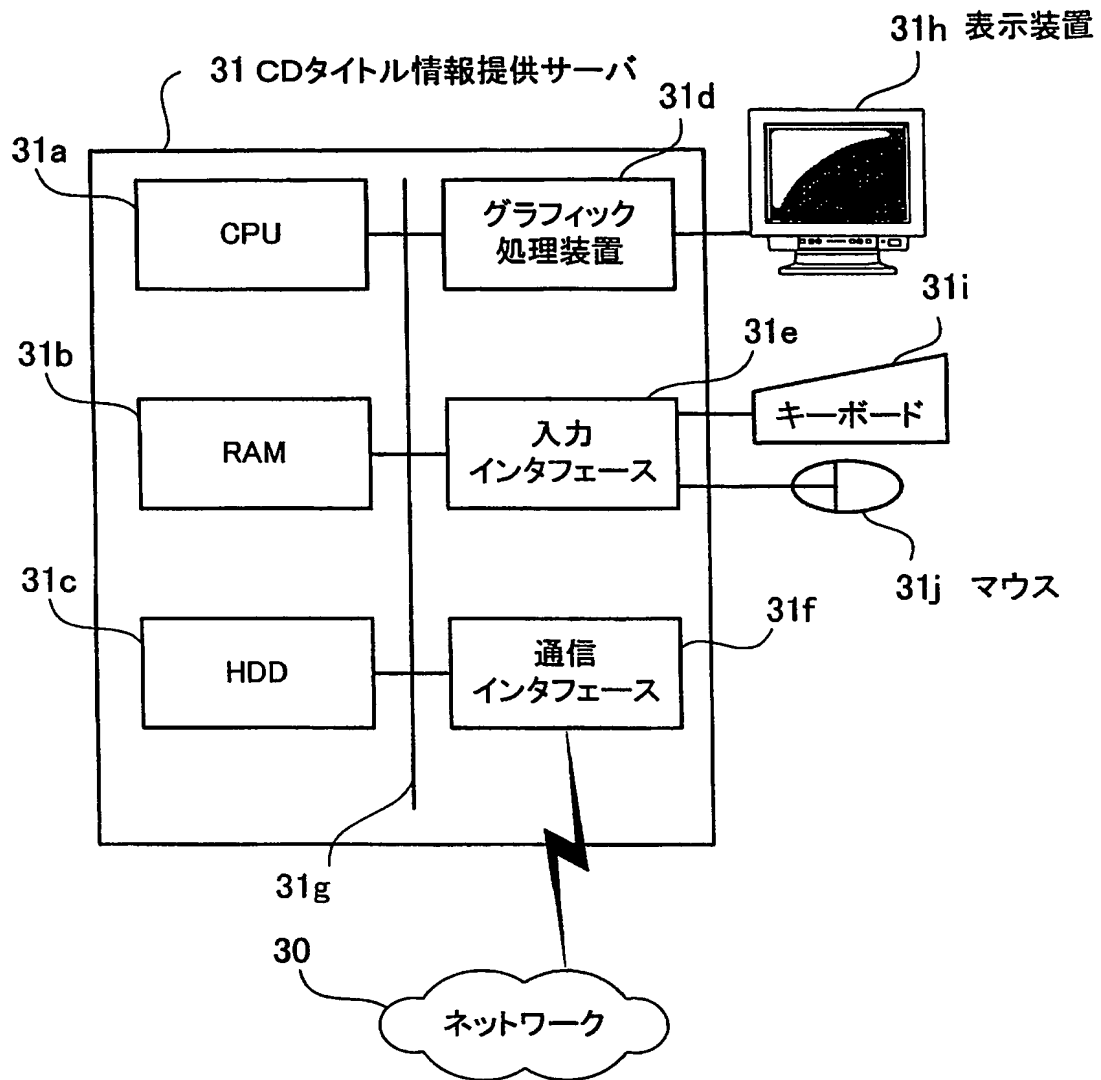
【書類名】 図面
【図 1】



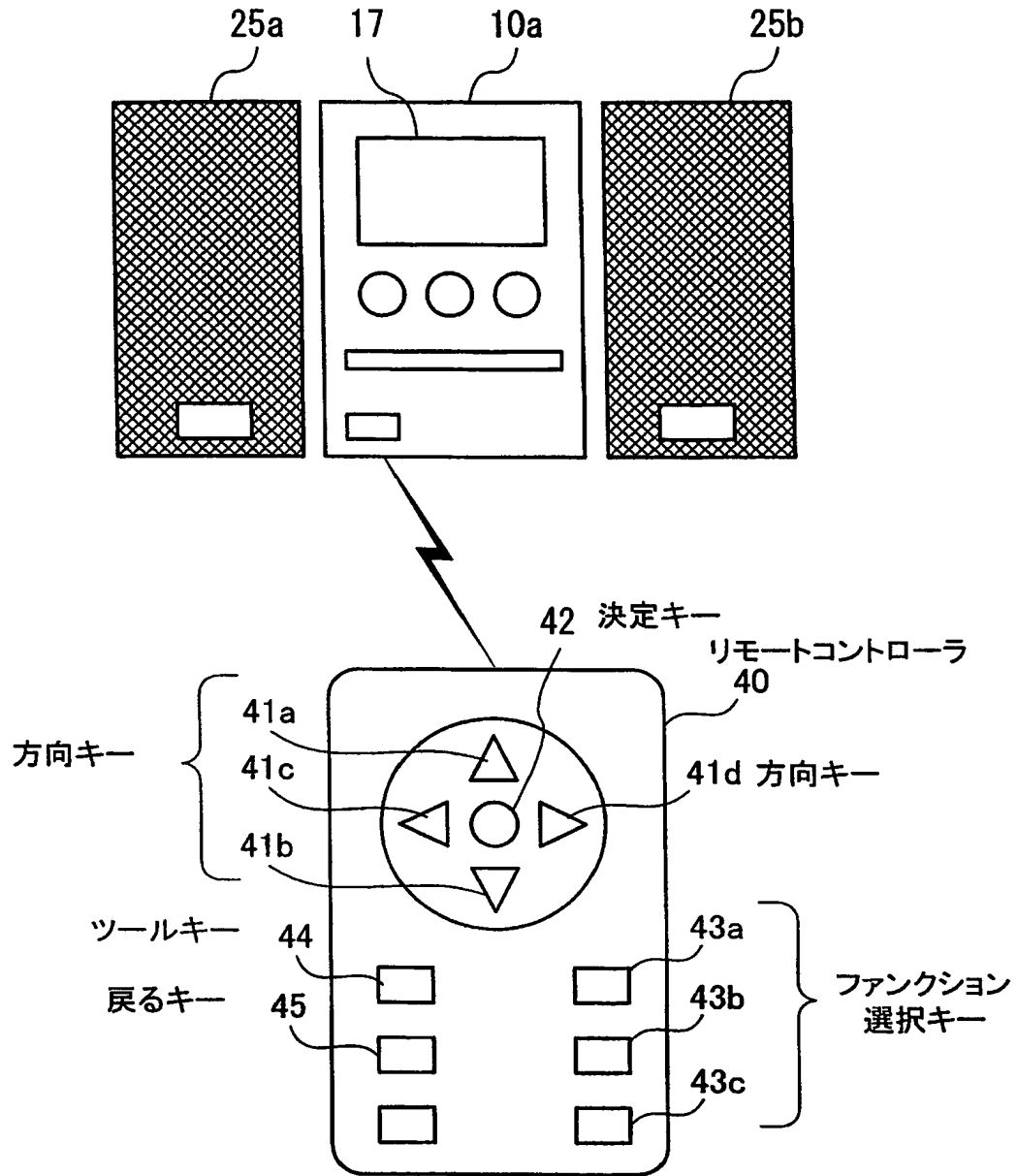
【図 2】



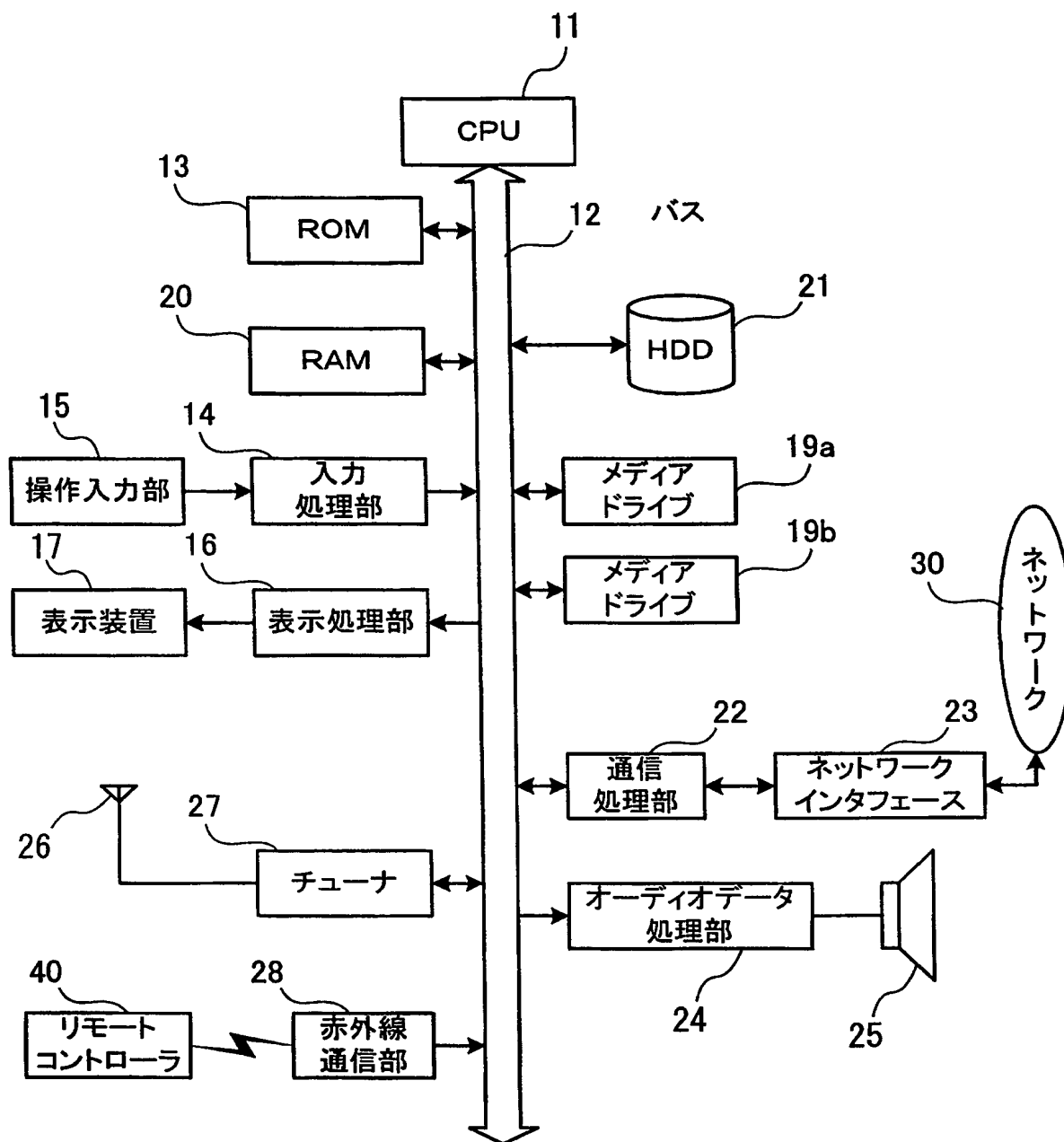
【図 3】



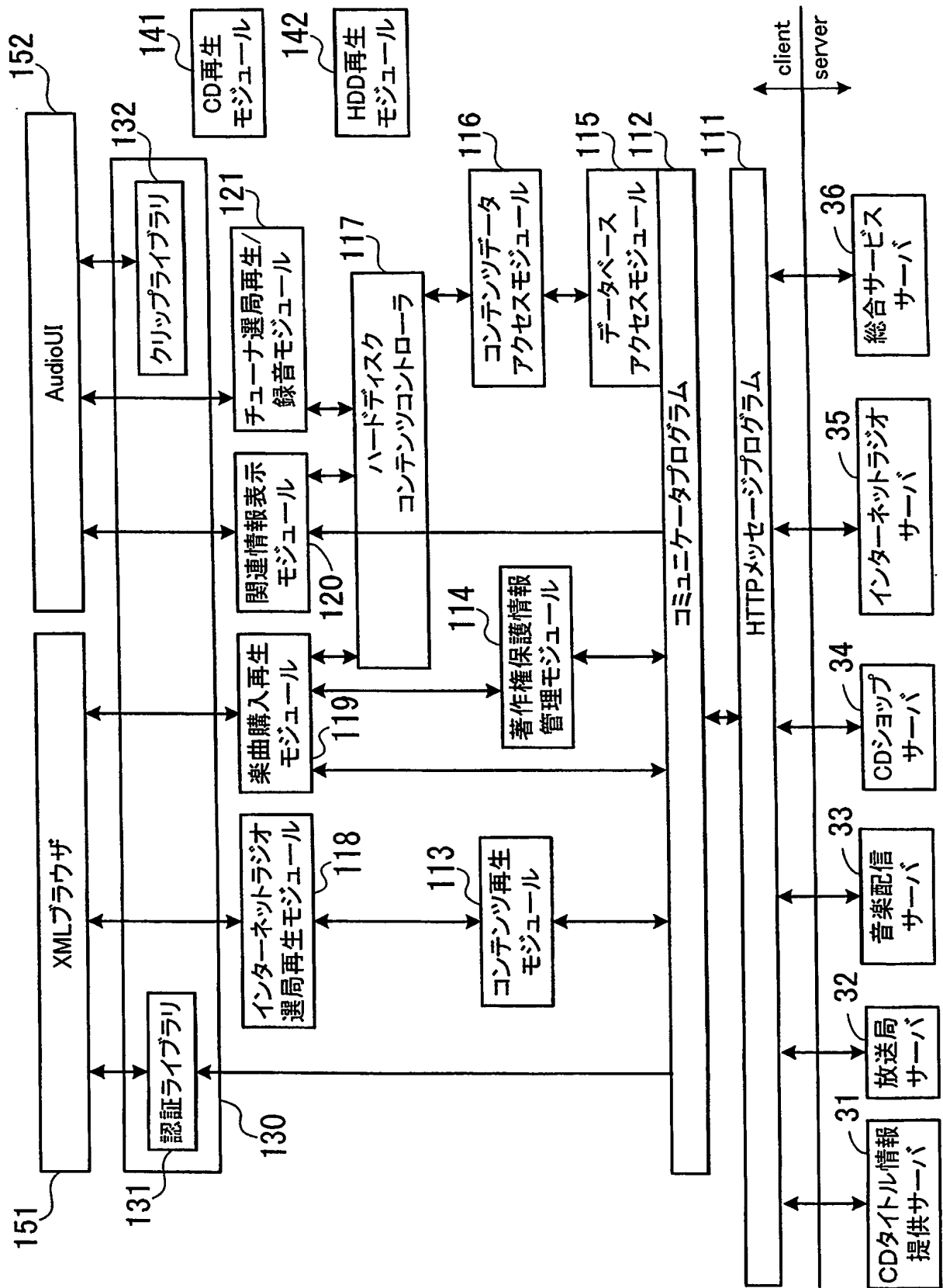
【図 4】



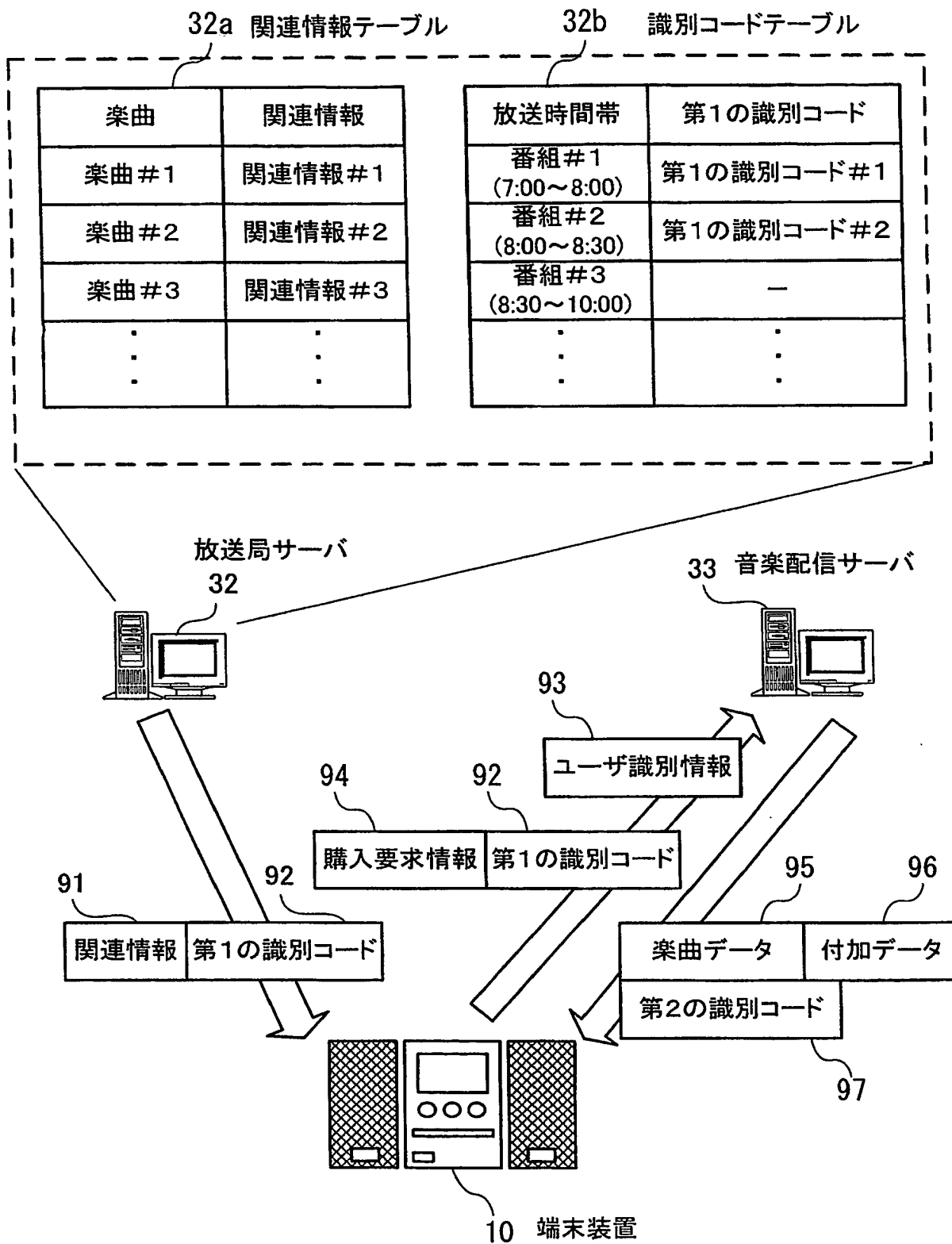
【図 5】



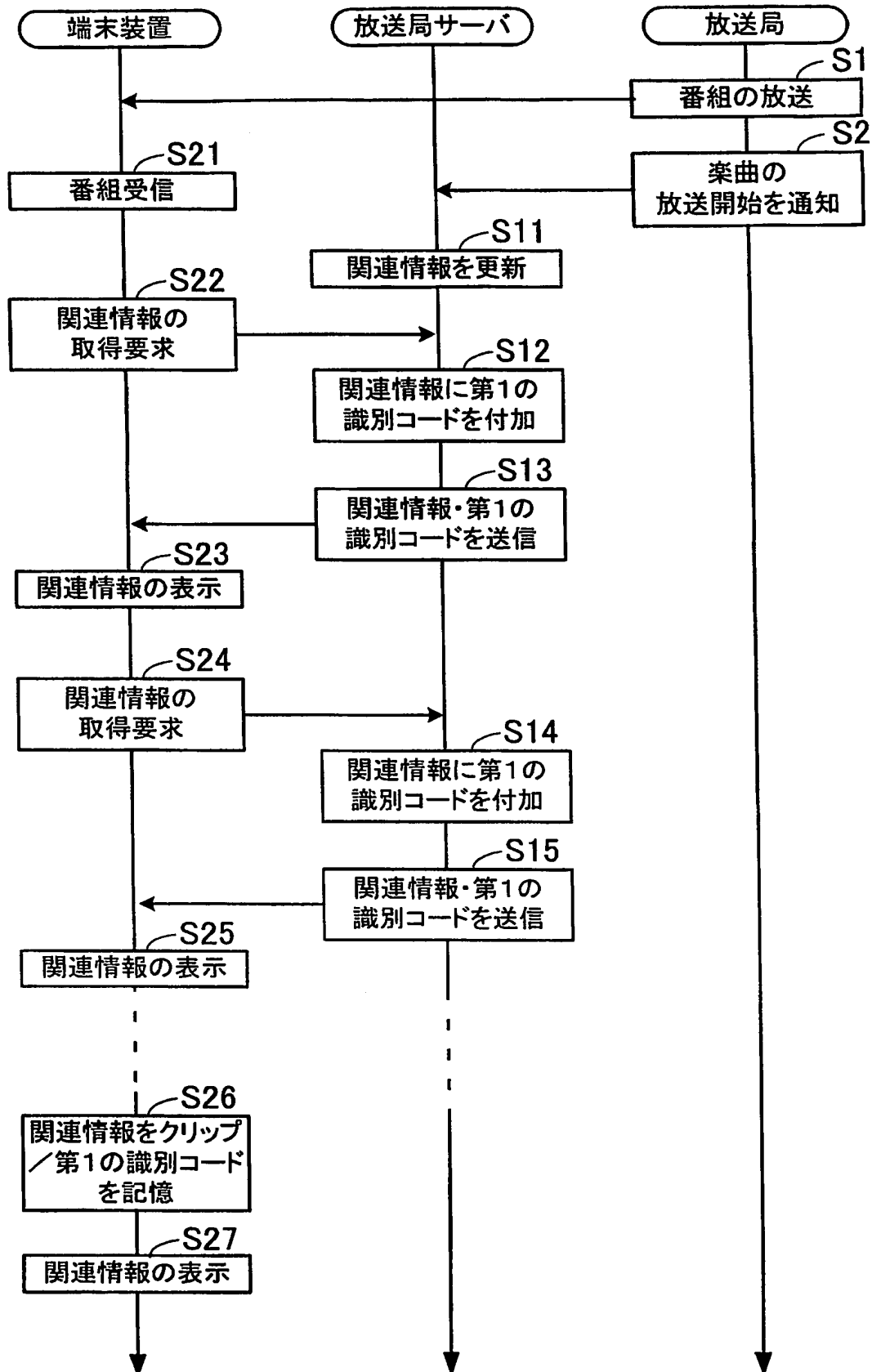
【図6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

50

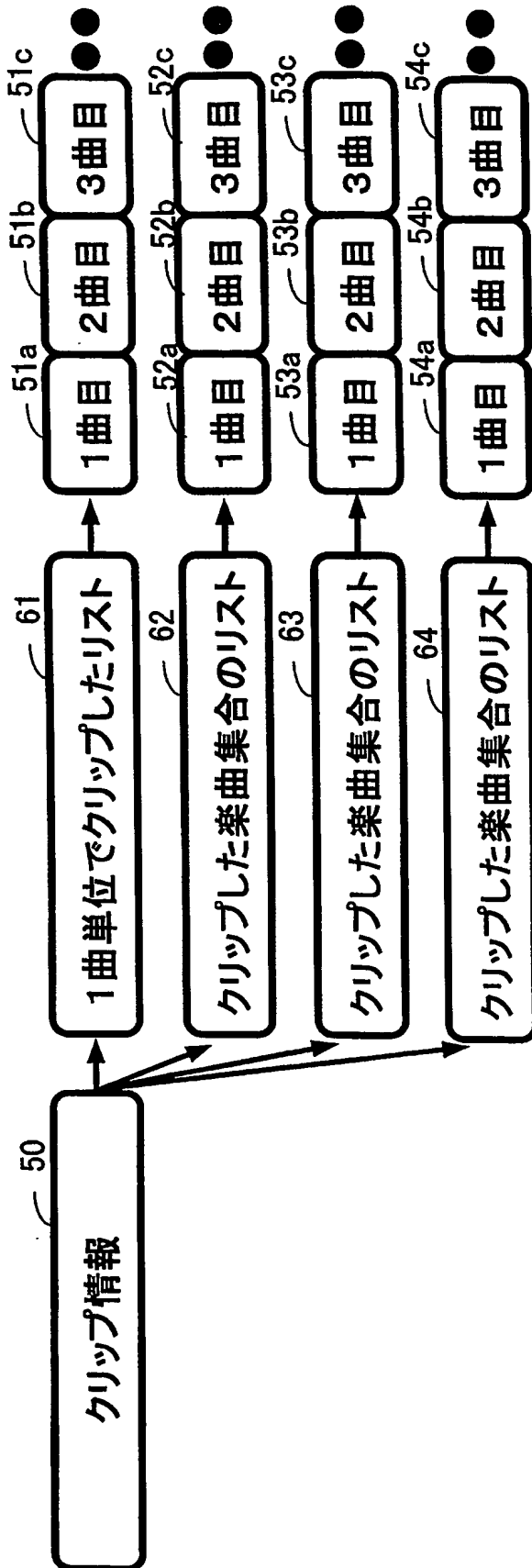
項目	内容
曲タイトル	雨のち晴れ
アーティスト名	ファルコンズ
クリップ時刻	2003/3/8 19:20
CD番号	No.01234567
クリップ場所	MD
⋮	⋮

【図 10】

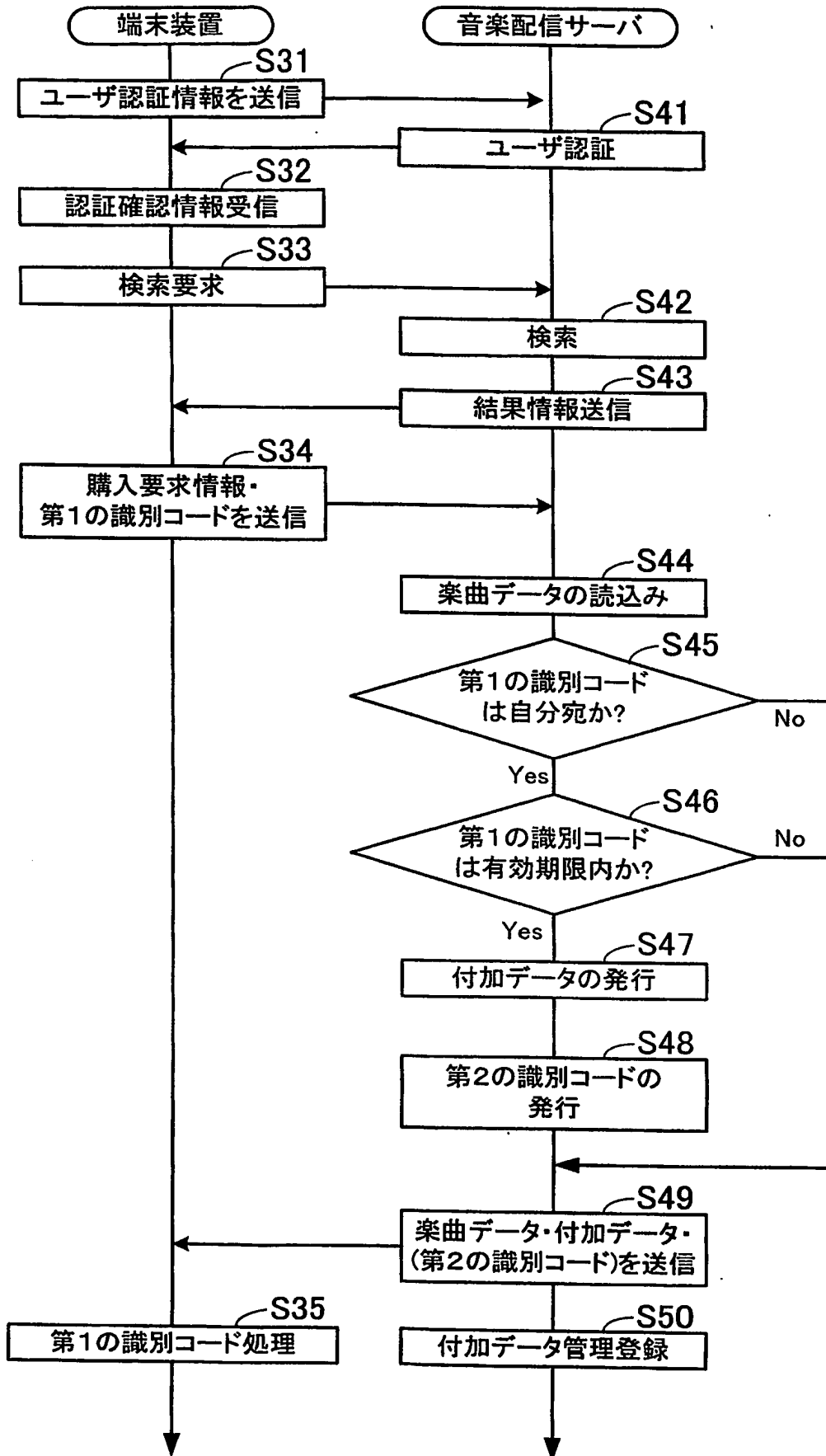
60 第1の識別コード

60a	発行者	FM品川
60b	目的	ボーナストラックA
60c	有効な相手	音楽配信サイトB
60d	有効期限	2003.12.31
60e	コードID	A03281

【図 11】



【図 12】

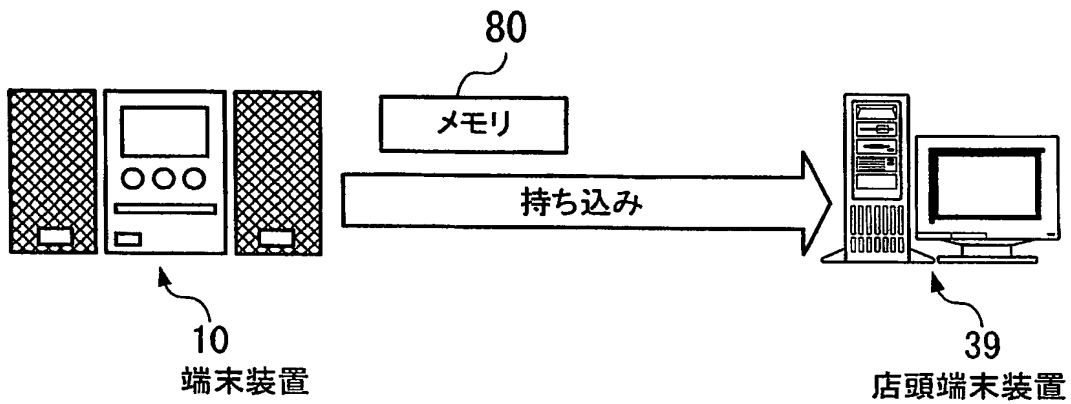


【図13】

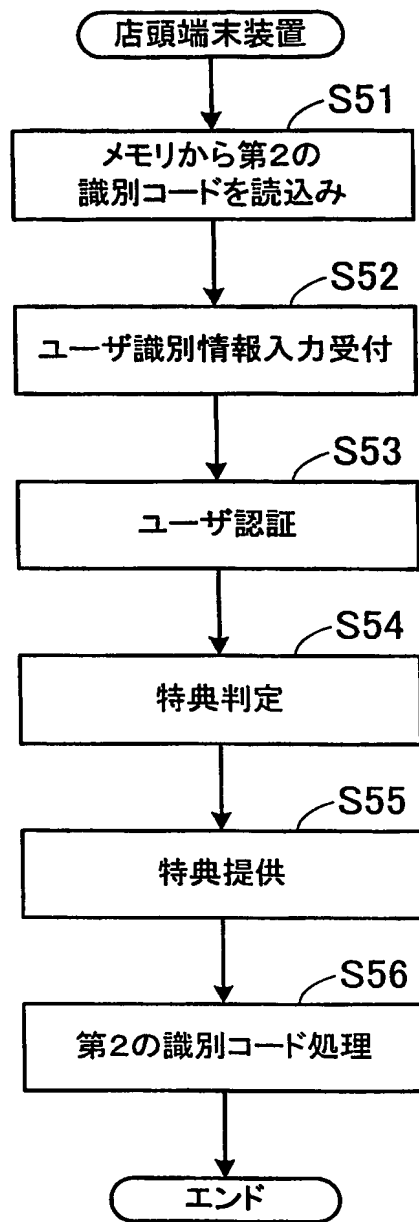
70 第2の識別コード

70a	発行者	音楽配信サイトB
70b	目的	特定CDの割引
70c	有効な相手	CDショップA
70d	有効期限	2003.12.31
70e	コードID	B49382

【図14】



【図 15】



【書類名】 要約書**【要約】**

【課題】 ユーザがコンテンツを購入した際に、更なるコンテンツの購入に対して特典を受ける権利をユーザに提供できる情報処理装置を提供する。

【解決手段】 情報処理装置 1 が要求情報 4 を送信すると、情報処理装置 2 は、要求情報 4 に対応する関連情報 3 を記憶手段 2 a から引き出し、第 1 の識別コード 5 と共に情報処理装置 1 に送信する。情報処理装置 1 は、表示手段 1 d を用いてユーザに関連情報 3 の内容を示す。ユーザが任意のコンテンツの購入を要求すると、情報処理装置 1 は、当該任意のコンテンツの購入を要求する購入要求情報 6 と第 1 の識別コード 5 とを送信する。情報処理装置 2 は、受信した購入要求情報 6 に対応するコンテンツデータ 7 を用意し、ユーザによる更なるコンテンツ購入の際に、ユーザが特定のサービスを受けるための権利を示す第 2 の識別コード 8 を発行し、コンテンツデータ 7 と第 2 の識別コード 8 とを送信手段 2 c から送信する。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 3 3 9 4 8 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 2 1 8 5]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 3 0 日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

氏 名 ソニー株式会社